

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する
現状調査

《総合編（国・公・私立小学校対象）》

プレスリリース用
報告書

平成 26 年 3 月

公益財団法人 日本英語検定協会

目 次

調査実施概要

<調査結果>

- 問 1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について
- 問 2. 4年生以下の英語活動について
 - 問 2-1. 4年生以下の英語活動の実施について
 - 問 2-2. 4年生以下の英語活動に対する考えについて
 - 問 2-3. [問 2-2 で「3・4年生」または「1・2年生」の選択肢で1～3と回答した方]
4年生以下の英語活動を円滑に実施するための環境整備について
 - 問 2-4. 問 2-2 で選択した回答理由について
- 問 3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」について
- 問 4. 「外国語活動及び英語活動で使用している教材」と「使用教材の優先度」について
 - 「使用教材」について
 - 「使用教材の優先度」について
- 問 5. 外国語活動（英語活動）に関する研修等について
 - 問 5-1. 今年度の外国語活動（英語活動）に関する研修会や研究発表会への参加について
 - 問 5-2. 必要と思う研修内容について
- 問 6. 5・6年生の外国語活動における評価等について
 - 問 6-1. 外国語活動における児童への評価・調査について
 - 問 6-2. 外国語活動における児童の達成度合いの観点について
 - 問 6-3. 外国語活動の成果を測るために小学校の卒業時までになんらかの考査（テスト）を実施する必要性と具体的な理由について
- 問 7. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたっての環境の整備について
- 問 8. 現在外国語活動において問題や課題であると感じていることについて
- 問 9. 外国語活動の導入をふまえた小学校と中学校の連携（小中連携）について
 - 問 9-1. 「小中連携」が有効であると思われる点について
 - 問 9-2. 「小中連携」で課題になっていると思われる点について
 - 問 9-3. 「小中連携」に取り組んでいるかについて
 - 問 9-4. [問 9-3 の選択肢で1または2と回答した方]
どのような方法で「小中連携」を行っているかについて

- 問 10. 外国語活動必修化導入がされ2年以上経過したが、5・6年生の外国語活動はスムーズに進んでいるかについて
- 問 11. 外国語活動及び英語活動の導入が小学校や児童に与える影響や変化について
- 問 11-1. どのような影響がある（あった）と思うかについて
- 問 11-2. 児童の英語力面でなんらかの良い変化や成果があったと思われることについて
- 問 12. 2013年10月に新聞等で、2020年度を目途にした小学校英語の実施方法に関する報道に対する具体的な意見について

<以上>

調査実施概要

1. 調査機関

公益財団法人 日本英語検定協会

2. 調査テーマ

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

3. 調査対象

全国の小学校（国・公・私立）から抽出した 5,216 校

4. 調査目的

平成 23 年度より小学校高学年に外国語活動が導入され 2 年以上が経過し、さらに中・低学年の英語活動への取り組みも変化が起きている。現在の小学校現場において、カリキュラムの編成・指導方法・教材の選択・研修及び小中連携などについて、どのような取り組みを行っているのか、また、どのような不安要素や課題を抱えているのかを、外国語活動及び英語活動等に関する設問によるアンケートを実施し、現状を浮き彫りにする。また、2020 年度を目処に発表された小学校の英語教育の方針（5,6 年生の正式な教科化、等）に関する設問を加え、小学校現場の反応や意見を集約する。

5. 調査期間

平成 25 年 12 月

6. 調査方法

送付・回収ともに、郵送による記述アンケート方式

7. 送付数・回収結果

調査対象	送付数	回収数	回収率
国・公・私立小学校	5,216 件	1,412 件	27.1%
(内訳)			
国立	73 件	32 件	43.8%
公立	4,927 件	1,307 件	26.5%
私立	216 件	73 件	33.8%

(注) 単位表記について

この報告書では、パーセント表示した割合の変化を表す数値（差）の単位として「ポイント」を使用しています。この単位の正式名称は「パーセントポイント」または「パーセンテージポイント」といい、「ポイント」はその略称で、「パーセントで表された 2 つの数値の差」を示します。本報告書では前年度比較をする場合などに、%値の差の単位として「ポイント」表記をしています。

調査結果

※ 本調査の報告書コメントに関して

本調査と同様の調査を昨年度も実施しており、本調査報告書コメントには、昨年度調査データとの比較（上回ったなどの単純比較や数値的比較）可能な設問において必要に応じて行い、その変化を記載しています。

問1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について、学年ごとに1つずつ選んでください。

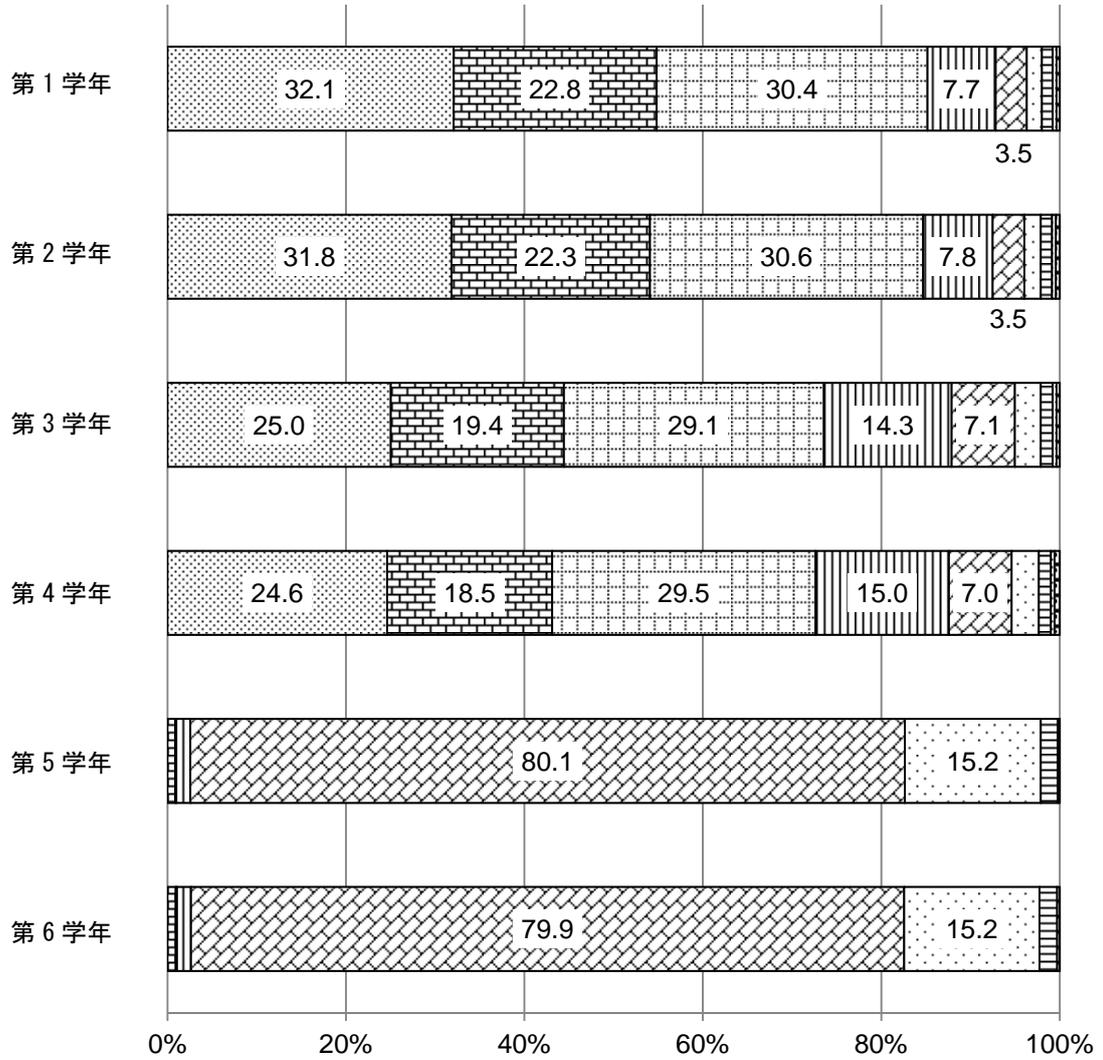
外国語活動及び英語活動の年間実施時間数をみると、1～4学年については、すべての学年で「①0時間」の比率が前年度を上回っており、取り組みを抑制している学校が増えている結果となった。しかし、「③4～11時間」「⑥36～70時間」「⑦71時間以上」の3項目について、すべての学年で前年度を上回り、「④12～22時間」「⑤23～35時間」では前年とほぼ同率であることから、取り組みを抑制している学校の増加と、積極的に時間を確保して取り組む学校の増加の二極化現象が起きているのではないかと考えられる。1～4学年で英語活動が最も実施されている最大値は前年度同様に「③4～11時間」で約30%となっており、すべての学年で前年度を上回っている。

高学年では、5学年、6学年とも前年度同様に最大値となった「⑤23～35時間」が約2ポイント下がって80%前後になったが、いずれの学年とも「⑥36～70時間」が2～3ポイント上回り、「⑦71時間以上」がわずかに前年度より高くなったので、時間数が全体として微増している。なお、23時間以上と回答した学校は、5学年で0.6ポイントアップの97.2%、6学年で0.7ポイントアップの97.1%だった。

		① 0時間	② 1～3 時間	③ 4～11 時間	④ 12～22 時間	⑤ 23～35 時間	⑥ 36～70 時間	⑦ 71時 間以上	⑧ わから ない	無回答
第1学年	回答数	452	321	428	108	49	24	17	6	5
	N=1,410	32.1%	22.8%	30.4%	7.7%	3.5%	1.7%	1.2%	0.4%	0.4%
第2学年	回答数	449	314	432	110	50	26	18	6	6
	N=1,411	31.8%	22.3%	30.6%	7.8%	3.5%	1.8%	1.3%	0.4%	0.4%
第3学年	回答数	353	274	411	202	100	41	19	6	5
	N=1,411	25.0%	19.4%	29.1%	14.3%	7.1%	2.9%	1.3%	0.4%	0.4%
第4学年	回答数	347	261	416	211	99	43	19	6	8
	N=1,410	24.6%	18.5%	29.5%	15.0%	7.0%	3.0%	1.3%	0.4%	0.6%
第5学年	回答数	0	12	2	22	1,130	215	27	0	3
	N=1,411	0.0%	0.9%	0.1%	1.6%	80.1%	15.2%	1.9%	0.0%	0.2%
第6学年	回答数	0	13	2	22	1,128	214	28	0	4
	N=1,411	0.0%	0.9%	0.1%	1.6%	79.9%	15.2%	2.0%	0.0%	0.3%

問1. 今年度の外国語活動及び英語活動の年間実施時間数について、学年ごとに1つずつ選んでください

- ① 0時間
- ② 1～3時間
- ③ 4～11時間
- ④ 12～22時間
- ⑤ 23～35時間
- ⑥ 36～70時間
- ⑦ 71時間以上
- ⑧ わからない
- 無回答



問 2. 4 年生以下の英語活動に関して伺います。

問 2-1. 2011 年度から 5・6 年生に対して外国語活動の必修化が施行されましたが、貴校では 4 年生以下でも、なんらかの活動を実施していますか。[3・4 年生] [1・2 年生] の学年群ごとに、下記の選択肢 1～7 の中からそれぞれ 1 つずつ選んで [] にご記入ください。

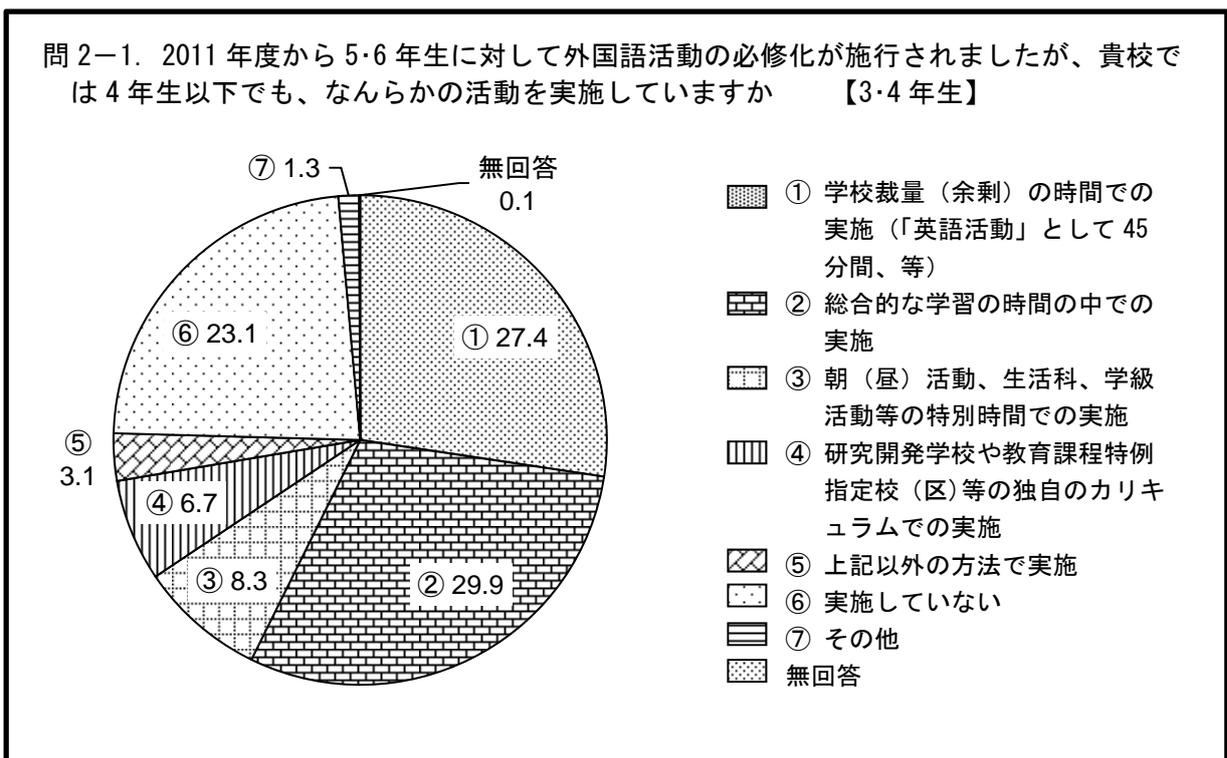
3・4 年生、1・2 年生とも、前年度と比べてみると、何らかの英語活動を実施している (①～⑤の合計) 割合も、「⑥ 実施していない」と答えた割合も、増えている。実施している回答の合計は、3・4 年生で 75.4% (前年度 72.5%)、1・2 年生で 68.5% (前年度 65.0%)、また実施していない割合は 3・4 年生で 23.1% (前年度 22.5%)、1・2 年生で 30.1% (前年度 28.6%) であった。これは、前問の間 1 の傾向と同様に、二極化を示していると言えよう。

3・4 年生における実施方法をみると、昨年同様「② 総合的な学習の時間の中での実施」が 29.9% と最も多く、「① 学校裁量 (余剰) の時間」の 27.4% と続いた。この 2 つの回答で 6 割近くを占め、順位は前年度と変わっていない。

1・2 年生における実施方法をみると、「① 学校裁量 (余剰) の時間」が 35.8% と昨年より 9 ポイント低くなったものの最も多かった。2 位には、昨年大きくポイントを下げた「③ 朝 (昼) 活動、生活科、学級活動等の特別時間での実施」となった。前年度の選択肢にはなかった「生活科、学級活動」という表現が加わったことが要因として考えられるが、大幅に増加して 21.0% と続いている。「④ 研究開発学校や教育課程特例指定校 (区) 等の独自のカリキュラムでの実施」は、昨年とほぼ同様の 5.4% で、なんらかの活動を実施しているという回答の中では 3 位であった。

[3・4 年生]

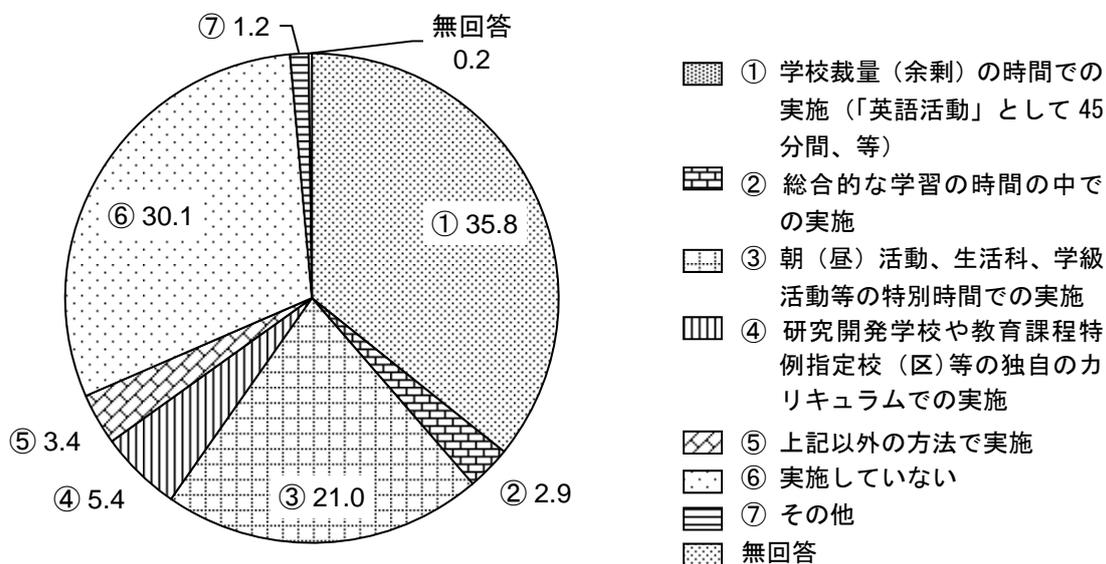
選択肢	回答数	N=1,409
① 学校裁量 (余剰) の時間での実施 (「英語活動」として 45 分間、等)	386	27.4%
② 総合的な学習の時間の中での実施	421	29.9%
③ 朝 (昼) 活動、生活科、学級活動等の特別時間での実施	117	8.3%
④ 研究開発学校や教育課程特例指定校 (区) 等の独自のカリキュラムでの実施	95	6.7%
⑤ 上記以外の方法で実施	44	3.1%
⑥ 実施していない	326	23.1%
⑦ その他	19	1.3%
無回答	1	0.1%



[1・2年生]

選択肢	回答数	N=1,411
① 学校裁量（余剰）の時間での実施（「英語活動」として45分間、等）	505	35.8%
② 総合的な学習の時間の中での実施	41	2.9%
③ 朝（昼）活動、生活科、学級活動等の特別時間での実施	296	21.0%
④ 研究開発学校や教育課程特例指定校（区）等の独自のカリキュラムでの実施	76	5.4%
⑤ 上記以外の方法で実施	48	3.4%
⑥ 実施していない	425	30.1%
⑦ その他	17	1.2%
無回答	3	0.2%

問2-1. 2011年度から5・6年生に対して外国語活動の必修化が施行されましたが、貴校では4年生以下でも、なんらかの活動を実施していますか 【1・2年生】



問2-2. 貴校では、4年生以下での英語活動についてどのように考えていますか。[3・4年生][1・2年生]の学年群ごとに、下記の選択肢1~7の中からそれぞれ1つずつ選んで[]にご記入ください。

英語活動を必要だとする回答（「① 5・6年生同様に必要」＋「② 時間数は少なくとも必要」＋「③ どちらかといえば必要」）は、3・4年生では約75%、1・2年生では約67%と大半を占め、必要ないとする回答（「⑥ 必要はない」＋「⑤ どちらかといえば必要ない」）を昨年同様上回った。

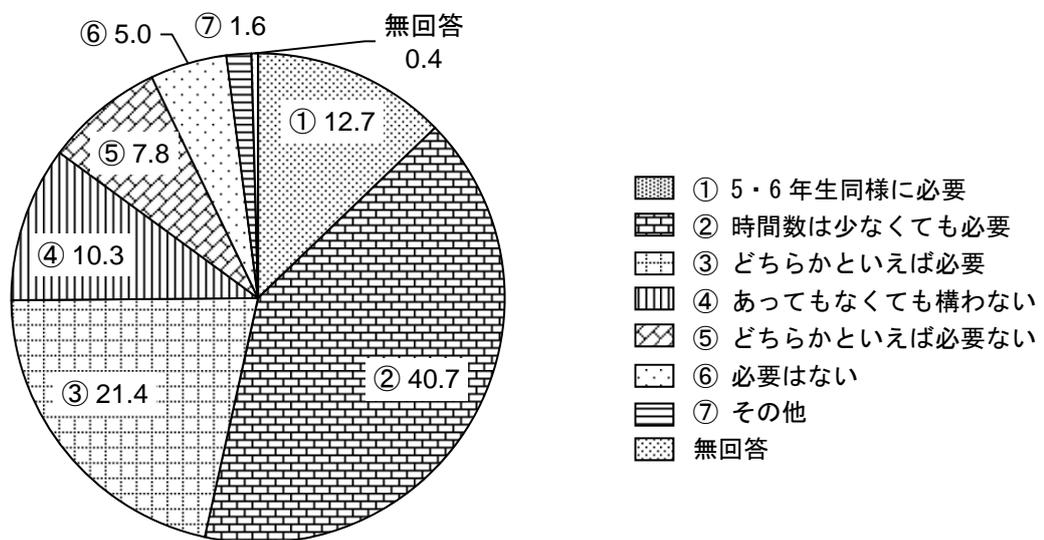
3・4年生では、「② 時間数は少なくとも必要」が40.7%と最も多く、「③ どちらかといえば必要」が21.4%で続いた。ただし、「⑤ どちらかといえば必要ない」と「⑥ 必要はない」という必要性を認めない回答の合計が12.8%（前年度10.2%）あり、昨年を2ポイントほど上回った。

1・2年生では、同様に「② 時間数は少なくとも必要」が36.5%と最も多く、次いで「③ どちらかといえば必要」が21.7%となったが、3・4年生と同じく「⑤ どちらかといえば必要ない」（10.2%）と「⑥ 必要はない」（7.9%）と必要性を認めない回答の合計が18.1%になり、昨年の12.0%を6ポイントほど上回った。

【3・4年生】

選択肢	回答数	N=1,412
① 5・6年生同様に必要	180	12.7%
② 時間数は少なくとも必要	575	40.7%
③ どちらかといえば必要	302	21.4%
④ あってもなくても構わない	145	10.3%
⑤ どちらかといえば必要ない	110	7.8%
⑥ 必要はない	71	5.0%
⑦ その他	23	1.6%
無回答	6	0.4%

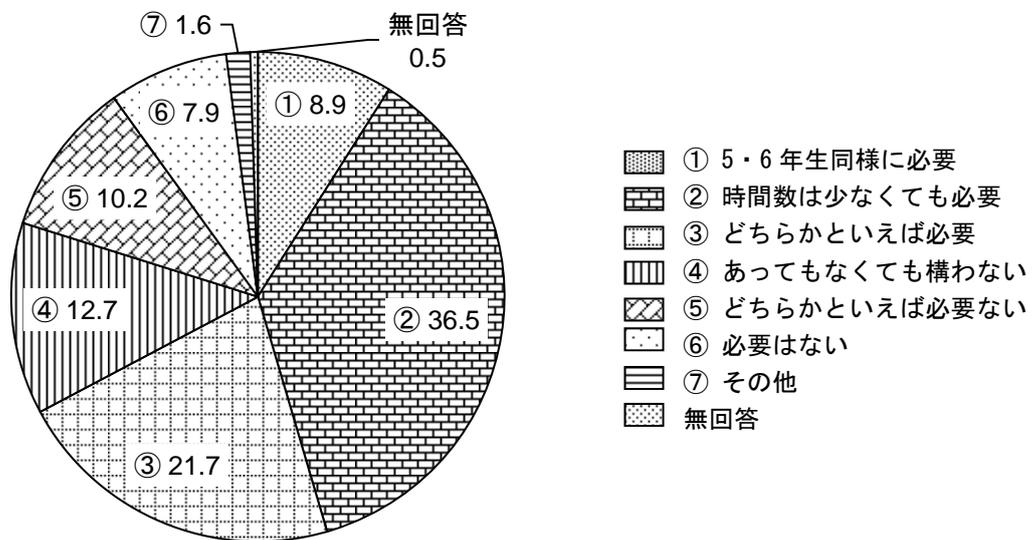
問2-2. 貴校では、4年生以下での英語活動についてどのように考えていますか 【3・4年生】



[1・2年生]

選択肢	回答数	N=1,412
① 5・6年生同様に必要	126	8.9%
② 時間数は少なくとも必要	516	36.5%
③ どちらかといえば必要	307	21.7%
④ あってもなくても構わない	179	12.7%
⑤ どちらかといえば必要ない	144	10.2%
⑥ 必要はない	111	7.9%
⑦ その他	22	1.6%
無回答	7	0.5%

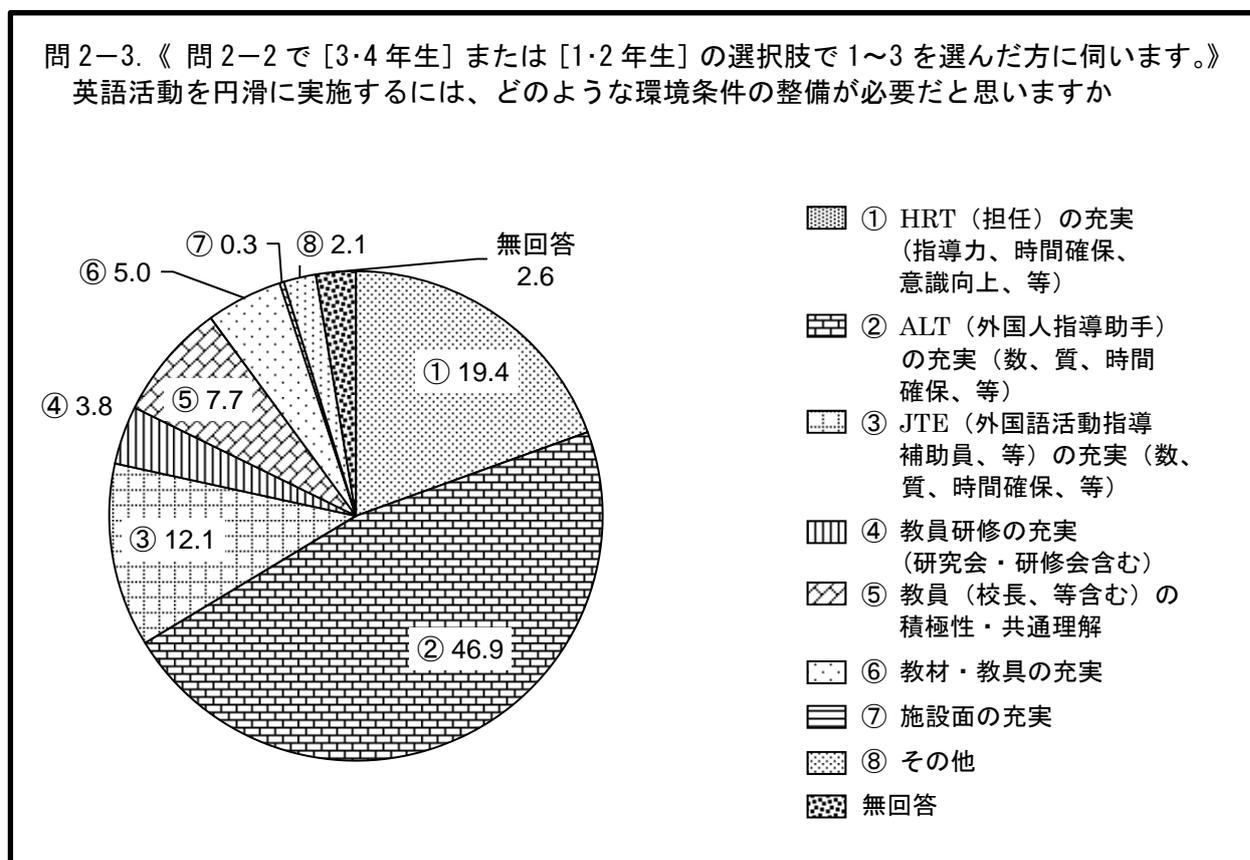
問2-2. 貴校では、4年生以下での英語活動についてどのように考えていますか 【1・2年生】



問2-3. 《問2-2で[3・4年生]または[1・2年生]の選択肢で1～3を選んだ方に伺います。》英語活動を円滑に実施するには、どのような環境条件の整備が必要だと思いますか。最も該当するものを1つだけ選んでください。

前年度は選択肢の中から該当するものを3つ選ぶ回答形式だったが、今回は「最も該当するもの1つ」という単一回答になった。そのため昨年との単純比較はできないが、必要性が高いと思われる項目が浮き彫りになったと考えられる。英語活動を必要だとする回答(問2-2の「① 5・6年生同様に必要」+「② 時間数は少なくとも必要」+「③ どちらかといえば必要」)に対して、円滑に実施するために必要な環境条件の整備を質問したところ、最も強く求められているのが「② ALT(外国人指導助手)の充実」で、46.9%と約半数にのぼった。続いて「① HRT(担任)の充実」が約19%、前回4位だった「③ JTE(外国語活動指導補助員、等)の充実」が約12%で3位となり、昨年3・4年生、1・2年生ともに3位だった「⑥ 教材・教具の充実」が5%という結果となった。

選択肢	回答数	N=1,039
① HRT(担任)の充実(指導力、時間確保、意識向上、等)	202	19.4%
② ALT(外国人指導助手)の充実(数、質、時間確保、等)	487	46.9%
③ JTE(外国語活動指導補助員、等)の充実(数、質、時間確保、等)	126	12.1%
④ 教員研修の充実(研究会・研修会含む)	40	3.8%
⑤ 教員(校長、等含む)の積極性・共通理解	80	7.7%
⑥ 教材・教具の充実	52	5.0%
⑦ 施設面の充実	3	0.3%
⑧ その他	22	2.1%
無回答	27	2.6%



問 2-4. 問 2-2 で選択した回答の理由を、学年群ごとに具体的にご記入ください。

英語活動の必要性について、3・4年生で「問 2-2-① 5・6年生同様に必要」「問 2-2-② 時間数は少なくとも必要」と回答した学校にはすでに6年間の指導をしている学校もあり、「1年生から必要」という意見が強かった。また、3・4年生では「5・6年生の英語学習の準備として必要」と考えている意見が多かった。1・2年生段階での英語活動が必要とする意見では、「小さいうちの方が、効果がある（耳ができあがる、感覚的に学べる etc.）」「コミュニケーション能力につながる」など早期教育を肯定する傾向が見られる。

英語活動が3・4年生で「問 2-2-③ どちらかといえば必要」と答えた学校では、問 2-2-①・②同様「少しでも早い段階から英語に慣れさせる」「異文化への理解を深める」「コミュニケーション能力につながる」など肯定的な意見が多かったが、「多忙すぎる」「ALT の調整がつかない」など消極的な意見も交じた。1・2年生段階で「問 2-2-③ どちらかといえば必要」とする学校も、ほぼ同じ傾向が見られる。

「問 2-2-④ あってもなくても構わない」とした学校の意見は、3・4年生で「あってもいいが時数が取れない」「ALT や教職員の確保が難しい」など現実的・物理的な問題をあげる意見が強く、1・2年生では「日本語教育が第一」などの意見も多かった。

「問 2-2-⑤ どちらかといえば必要ない」「問 2-2-⑥ 必要はない」と答えた学校では、3・4年生、1・2年生のどの学年群でも「マニュアル・教材・人員の不備や不足」をあげる声が多く、「国語を最優先すべき」「他の教科の指導で精いっぱい」などの理由も見られた。

問 3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」について、下記の各項目に該当する各学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）をすべて選んでください。貴校に該当しない学年群は空欄とし、「その他」を選んだ場合には、その内容も具体的にご記入ください。

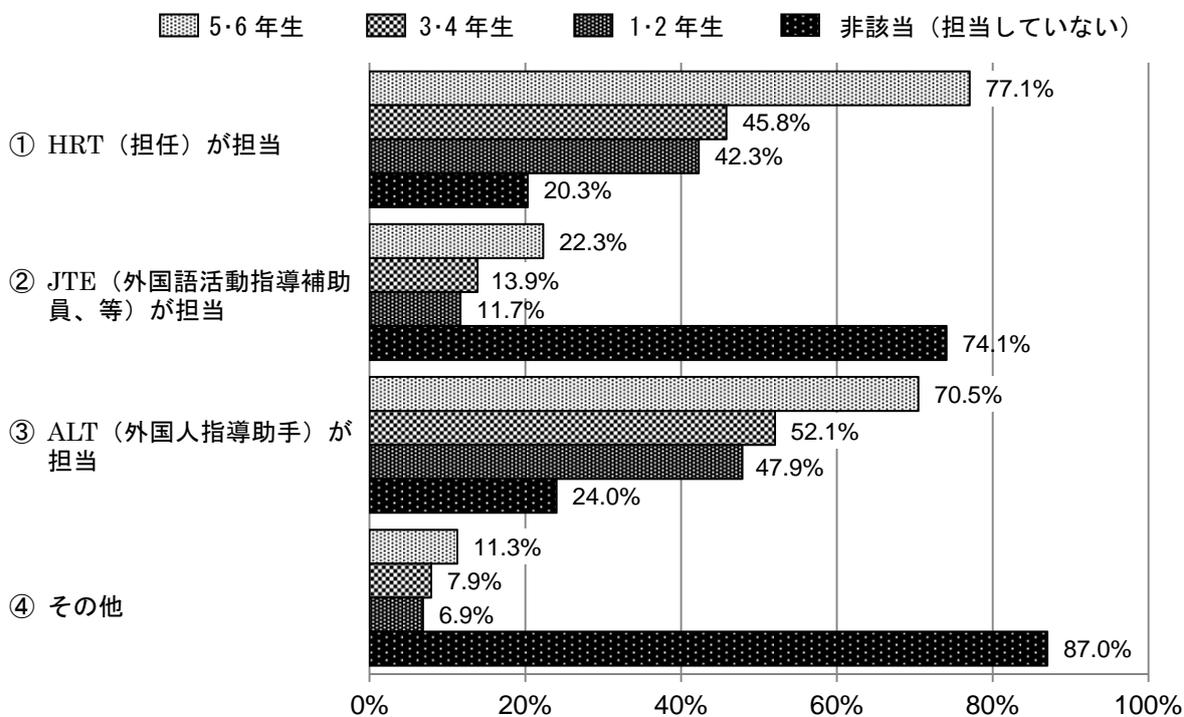
外国語活動及び英語活動の担当者としては、どの学年群とも「① HRT（担任）が担当」、「③ ALT（外国人指導助手）が担当」が多かった。5・6年生では「① HRT（担任）が担当」、「③ ALT（外国人指導助手）が担当」の順に割合が高く、3・4年生と1・2年生では逆に「③ ALT（外国人指導助手）が担当」が「① HRT（担任）が担当」よりも若干割合が高くなっている。

3・4年生と1・2年生では、「① HRT（担任）が担当」が45.8%と42.3%、「③ ALT（外国人指導助手）が担当」が52.1%と47.9%と高い割合を示し、5・6年生ではそれぞれ77.1%、70.5%と、3・4年生に比べて20ポイント前後上昇する。5・6年生ではティームティーチング(TT)を行っているケースが多いと考えられる。

■ 「外国語活動及び英語活動の担当者」について

		5・6年生	3・4年生	1・2年生	非該当
① HRT（担任）が担当	回答数	1,088	647	597	287
	N=1412	77.1%	45.8%	42.3%	20.3%
② JTE（外国語活動指導補助員、等）が担当	回答数	315	196	165	1,046
	N=1412	22.3%	13.9%	11.7%	74.1%
③ ALT（外国人指導助手）が担当	回答数	995	735	676	339
	N=1412	70.5%	52.1%	47.9%	24.0%
④ その他	回答数	159	112	97	1,229
	N=1412	11.3%	7.9%	6.9%	87.0%

問3. 「外国語活動及び英語活動の担当者」について、下記の各項目に該当する各学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）をすべて選んでください



問 4. 「外国語活動及び英語活動で使用している教材」と「使用教材の優先度」について、下記の各項目に該当する各学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）をすべて選んでください。貴校に該当しない学年群は空欄とし、「その他」を選んだ場合には、その内容も具体的にご記入ください。

〈使用している教材について〉

使用している教材としては、5・6年生では外国語活動教材「① Hi, friends!」を使用」という回答が圧倒的に多く、91.2%（前年度 90.8%）に達しており、「Hi, friends!」が中心的な教材になっていることがわかる。また「⑤ 電子黒板及びPC用の『Hi, friends!』付属ソフトを使用」も52.5%と高い割合を示している。「② 教員またはJTEやALT作成の自作教材を使用」も、5・6年生で49.2%（前年度40.8%）と高い比率を占めている。

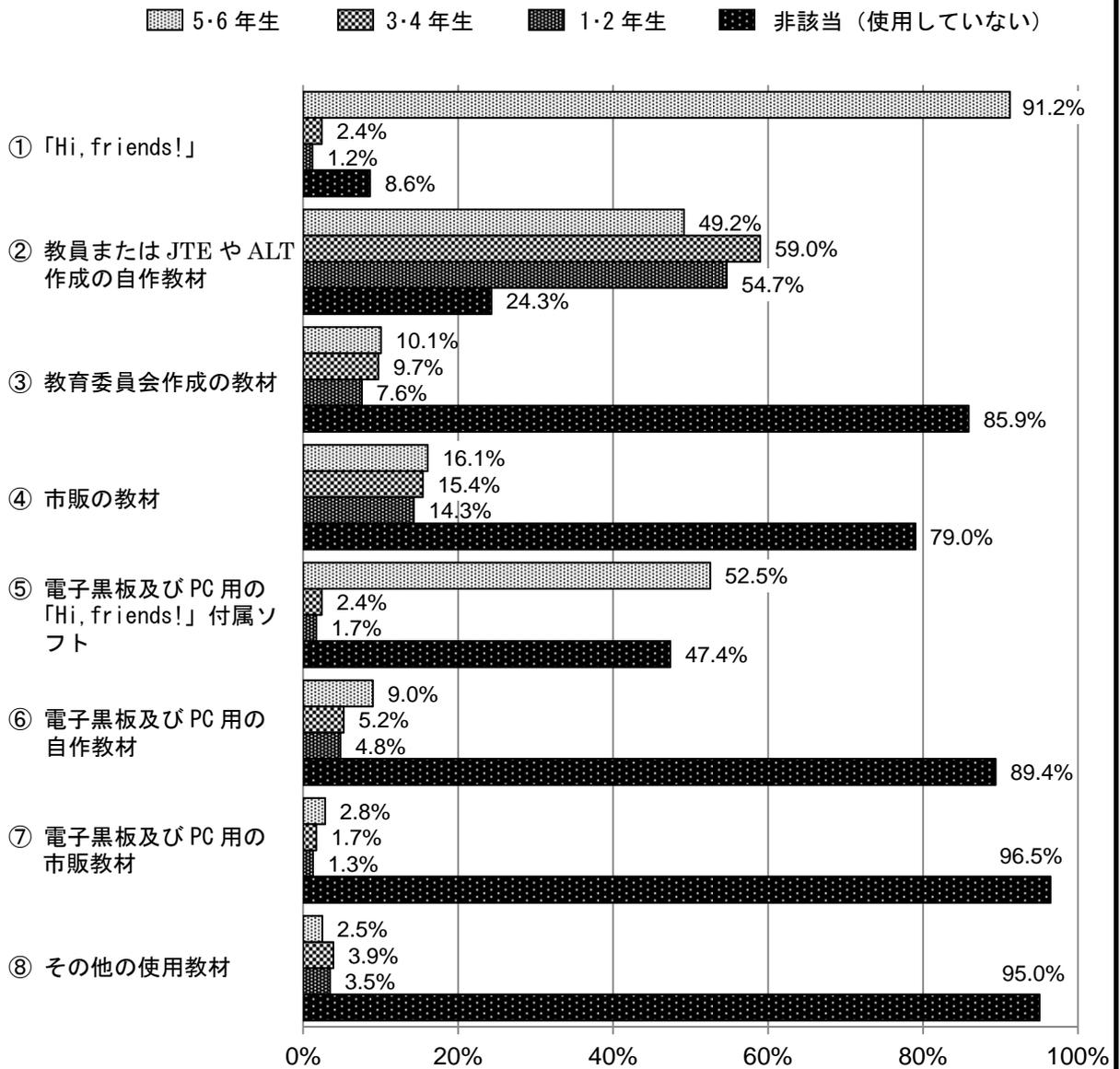
以下、「④ 市販の教材を使用」が16.1%（前年度14.1%）、「③ 教育委員会作成の教材を使用」が10.1%（前年度8.5%）、「⑥ 電子黒板及びPC用の自作教材を使用」9.0%（前年度7.3%）と、いずれも前年度を上回る割合を示している。これは、一昨年まで文部科学省から提供されていた教材『英語ノート』の使用をやめた学校が増えたことも一因と思われる。

3・4年生、1・2年生では、「③ 教員またはJTEやALT作成の自作教材を使用」が50%台と最も割合が高く、続いて「⑤ 市販の教材を使用」が10%台半ばとなっており、標準的な教材がない状態を反映している。英語活動に取り組む各学校では様々な独自の工夫で行っている傾向を示す結果となったといえよう。

■ 「使用している教材」について

		5・6年生	3・4年生	1・2年生	非該当
① 「Hi, friends!」	回答数	1,288	34	17	122
	N=1,412	91.2%	2.4%	1.2%	8.6%
② 教員またはJTEやALT作成の自作教材	回答数	694	833	772	343
	N=1,412	49.2%	59.0%	54.7%	24.3%
③ 教育委員会作成の教材	回答数	142	137	107	1,213
	N=1,412	10.1%	9.7%	7.6%	85.9%
④ 市販の教材	回答数	227	218	202	1,116
	N=1,412	16.1%	15.4%	14.3%	79.0%
⑤ 電子黒板及びPC用の「Hi, friends!」付属ソフト	回答数	742	34	24	669
	N=1,412	52.5%	2.4%	1.7%	47.4%
⑥ 電子黒板及びPC用の自作教材	回答数	127	74	68	1,262
	N=1,412	9.0%	5.2%	4.8%	89.4%
⑦ 電子黒板及びPC用の市販教材	回答数	40	24	18	1,362
	N=1,412	2.8%	1.7%	1.3%	96.5%
⑧ その他の使用教材	回答数	35	55	49	1,342
	N=1,412	2.5%	3.9%	3.5%	95.0%

問 4. 「使用している教材」について、下記の各項目に該当する各学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）をすべて選んでください



〈使用教材の優先度について〉

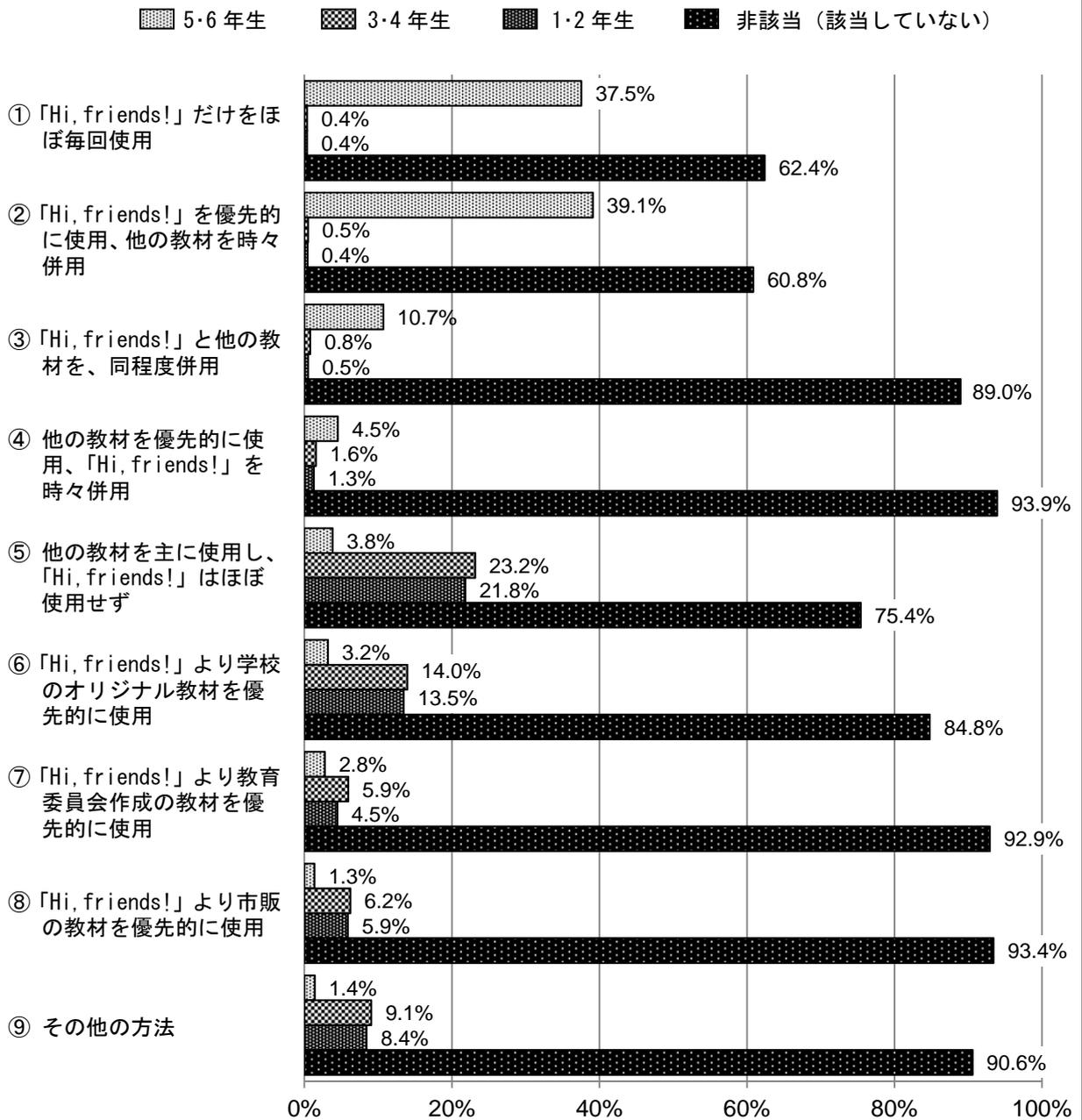
5・6年生については、文部科学省が提供している外国語活動教材「Hi, friends!」を優先的に活用している割合が高い。「② 『Hi, friends!』を優先的に使用、他の教材を時々併用」が39.1%と最も多く、次に多い「① 『Hi, friends!』だけをほぼ毎回使用」の37.5%と合わせると、76.6%におよぶ。さらに、「③ 『Hi, friends!』と他の教材を、同程度併用」の10.7%と合わせると87.3%が優先的に活用していると回答している。

3・4年生、1・2年生では、「⑤ 他の教材を主に使用し、『Hi, friends!』はほぼ使用せず」がそれぞれ高い割合で、3・4年生23.2%、1・2年生21.8%となっており、続いて「⑥ 「Hi, friends!」より学校のオリジナル教材を優先的に使用」がどちらも約14%となっている。基本的に「Hi, friends!」は、5・6年生向けであることから、それを反映した結果となった。また、「⑨ その他の方法」が3・4年生9.1%、1・2年生8.4%となっているが、記述回答の内容から、ALT自作の教材が多く使われているようだ。

■ 「使用教材の優先度」について

		5・6年生	3・4年生	1・2年生	非該当
① 「Hi, friends!」だけをほぼ毎回使用	回答数	530	5	5	881
	N=1,412	37.5%	0.4%	0.4%	62.4%
② 「Hi, friends!」を優先的に使用、他の教材を時々併用	回答数	552	7	6	859
	N=1,412	39.1%	0.5%	0.4%	60.8%
③ 「Hi, friends!」と他の教材を、同程度併用	回答数	151	11	7	1,256
	N=1,412	10.7%	0.8%	0.5%	89.0%
④ 他の教材を優先的に使用、「Hi, friends!」を時々併用	回答数	64	22	18	1,326
	N=1,412	4.5%	1.6%	1.3%	93.9%
⑤ 他の教材を主に使用し、「Hi, friends!」はほぼ使用せず	回答数	54	327	308	1,065
	N=1,412	3.8%	23.2%	21.8%	75.4%
⑥ 「Hi, friends!」より学校のオリジナル教材を優先的に使用	回答数	45	197	190	1,197
	N=1,412	3.2%	14.0%	13.5%	84.8%
⑦ 「Hi, friends!」より教育委員会作成の教材を優先的に使用	回答数	39	84	63	1,312
	N=1,412	2.8%	5.9%	4.5%	92.9%
⑧ 「Hi, friends!」より市販の教材を優先的に使用	回答数	19	88	83	1,319
	N=1,412	1.3%	6.2%	5.9%	93.4%
⑨ その他の方法	回答数	20	128	119	1,279
	N=1,412	1.4%	9.1%	8.4%	90.6%

問4. 「使用教材の優先度」について、下記の各項目に該当する各学年群（5・6年生、3・4年生、1・2年生）をすべて選んでください



問 5. 外国語活動（英語活動）に関する研修等について伺います。

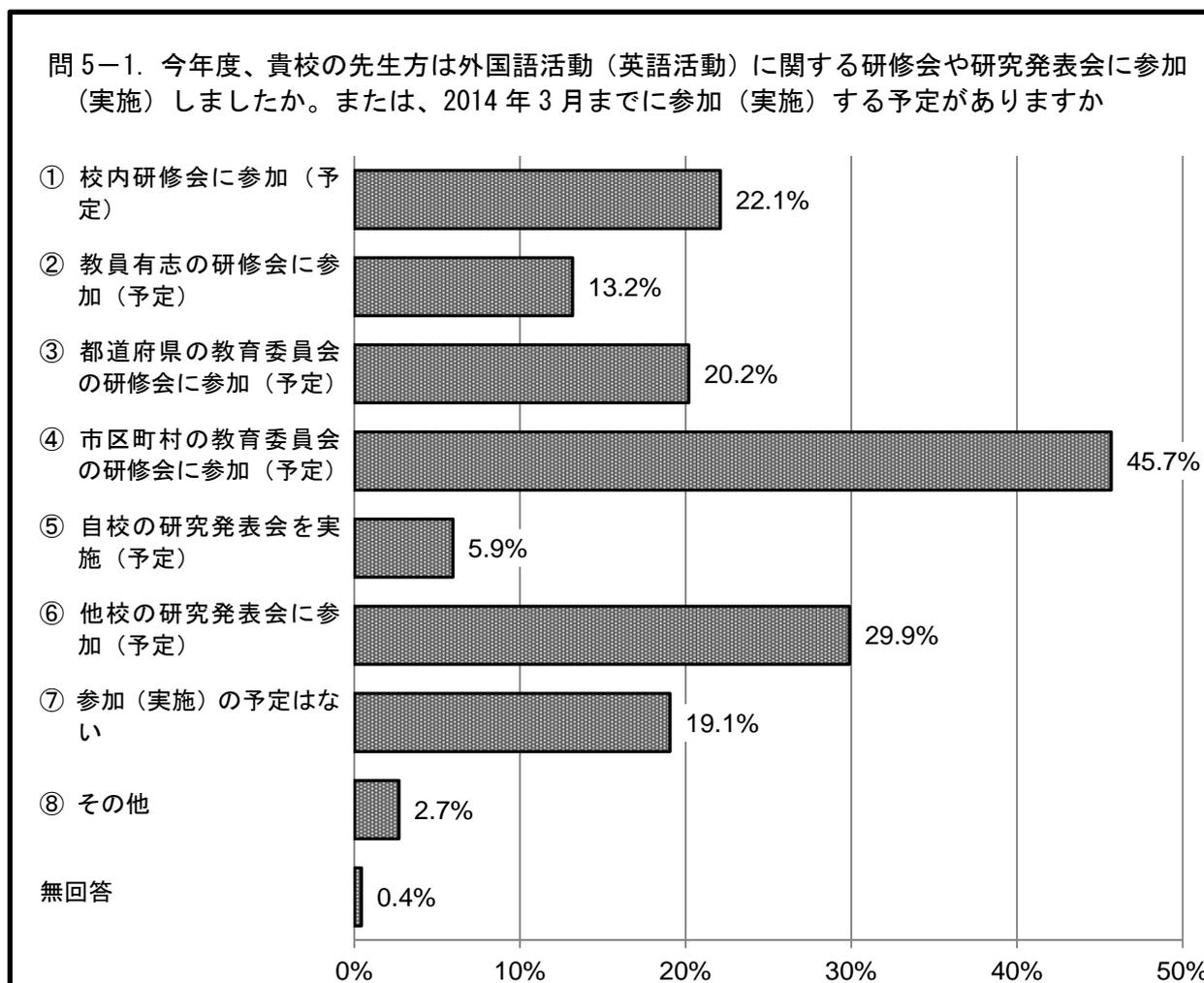
問 5-1. 今年度、貴校の先生方は外国語活動（英語活動）に関する研修会や研究発表会に参加（実施）しましたか。または、2014年3月までに参加（実施）する予定がありますか。該当するものをすべて選んでください。

教員の研修会や研究発表会への参加状況をみると、全体的に前年度よりも減少している。その中で「④ 市区町村の教育委員会の研修会に参加（予定）」がもっとも多い45.7%だったが、昨年よりも7ポイントほど割合が低くなった。続いて「⑥ 他校の研究発表会に参加（予定）」（29.9%、昨年35.0%）、「① 校内研修会に参加（予定）」（22.1%、昨年25.4%）、「③ 都道府県の教育委員会の研修会に参加（予定）」（20.2%、昨年22.8%）の順となっており、それぞれ昨年よりも減少している。

一方、「⑧ 参加（実施）の予定はない」が19.1%あり、昨年より5.7ポイント増加した。2割近くの学校で研修への取り組みがないということになる。

以上の結果から、全体として研修参加の機会は年々減少傾向にあるようだ。

選択肢	回答数	N=1,412
① 校内研修会に参加（予定）	312	22.1%
② 教員有志の研修会に参加（予定）	186	13.2%
③ 都道府県の教育委員会の研修会に参加（予定）	285	20.2%
④ 市区町村の教育委員会の研修会に参加（予定）	645	45.7%
⑤ 自校の研究発表会を実施（予定）	84	5.9%
⑥ 他校の研究発表会に参加（予定）	422	29.9%
⑦ 参加（実施）の予定はない	269	19.1%
⑧ その他	38	2.7%
無回答	6	0.4%



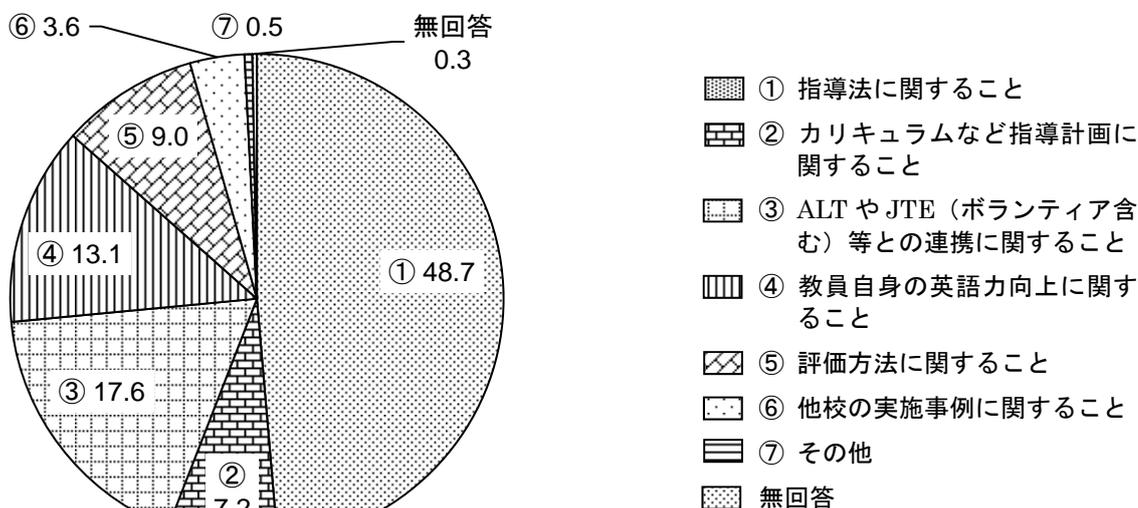
問5-2. 貴校に必要なと思う研修内容はどれですか。最も該当するものを1つだけ選んでください。

必要と思われる研修内容をみると、「① 指導法に関すること」が他を引き離して最も多く、48.7%となった。続いて「③ ALTやJTE（ボランティア含む）等との連携に関すること」が17.6%「④ 教員自身の英語力向上に関すること」が13.1%であった。「⑤ 評価方法に関すること」は年々割合が低くなり9.0%、4位となり、昨年度から約16ポイント低くなった。評価方法についてはある程度周知が図られてきたということかもしれない。

前年度は複数回答であったので、単純比較は難しいが、前年度の1位は「① 指導法に関すること」、そして2位は「④ 教員自身の英語力向上に関すること」、3位は「③ ALTやJTE（ボランティア含む）等との連携に関すること」となっていた。今年度は2位と3位が入れ替わった結果となったが、1位は常に「① 指導法に関すること」が圧倒的に選択されており、研修課題として教員に最も強く必要とされている項目という結果となっている。

選択肢	回答数	N=1,373
① 指導法に関すること	668	48.7%
② カリキュラムなど指導計画に関すること	99	7.2%
③ ALTやJTE（ボランティア含む）等との連携に関すること	242	17.6%
④ 教員自身の英語力向上に関すること	180	13.1%
⑤ 評価方法に関すること	124	9.0%
⑥ 他校の実施事例に関すること	49	3.6%
⑦ その他	7	0.5%
無回答	4	0.3%

問5-2. 貴校に必要なと思う研修内容はどれですか

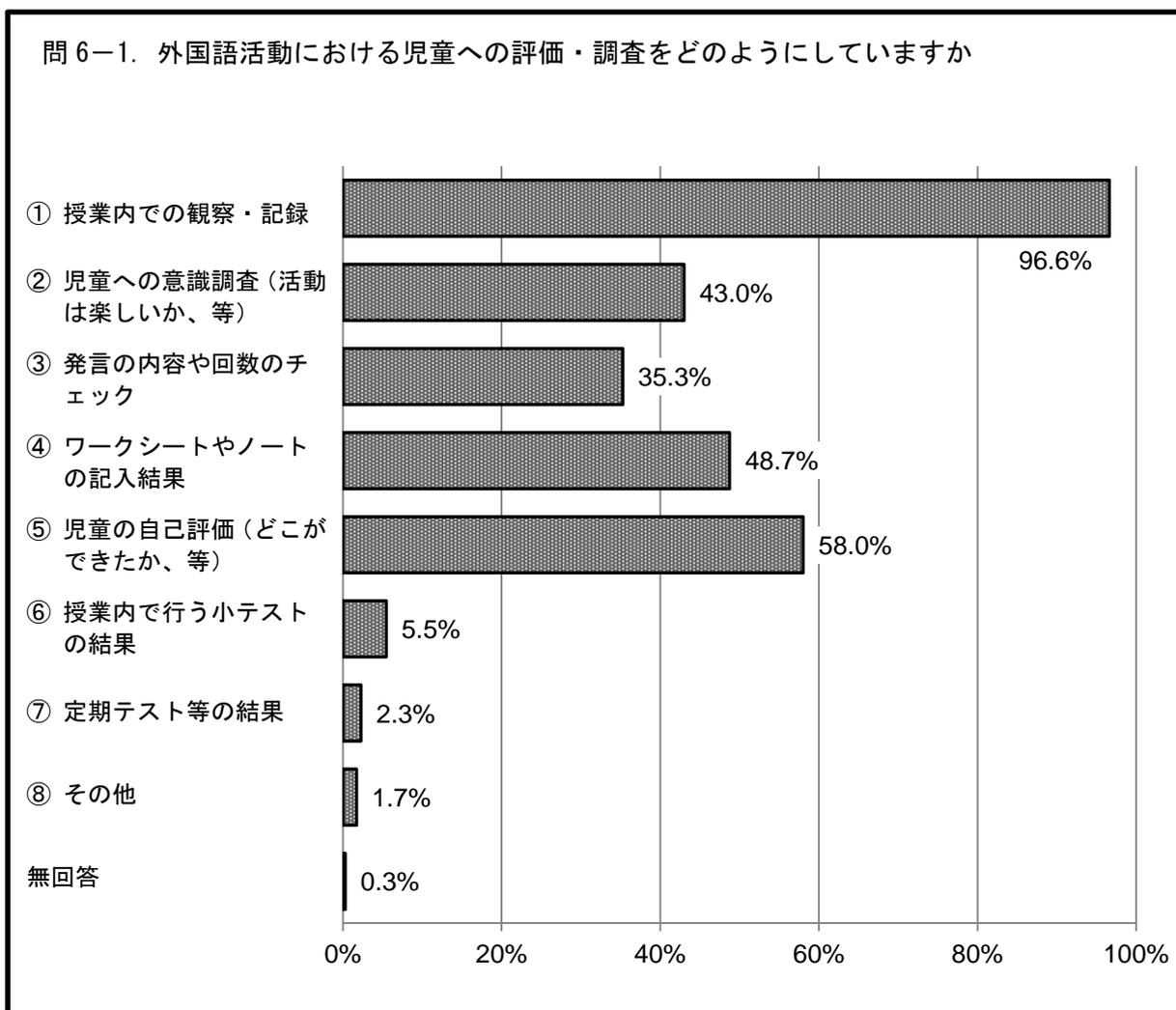


問 6. 5・6年生の外国語活動における評価等について伺います。

問 6-1. 外国語活動における児童への評価・調査をどのようにしていますか。該当するものをすべて選んでください。

児童への評価・調査については、「① 授業内での観察・記録」が 96.6%とほとんどの学校で実施されており、「⑤ 児童の自己評価（どこができたか、等）」（58.0%）、「④ ワークシートやノートの記入結果」（48.7%）、「② 児童への意識調査（活動は楽しいか、等）」（43.0%）、「③ 発言の内容や回数のチェック」（35.4%）の順となっている。これらの傾向は前年度と変化はなかった。

選択肢	回答数	N=1,412
① 授業内での観察・記録	1,364	96.6%
② 児童への意識調査（活動は楽しいか、等）	607	43.0%
③ 発言の内容や回数のチェック	498	35.3%
④ ワークシートやノートの記入結果	688	48.7%
⑤ 児童の自己評価（どこができたか、等）	819	58.0%
⑥ 授業内で行う小テストの結果	77	5.5%
⑦ 定期テスト等の結果	32	2.3%
⑧ その他	24	1.7%
無回答	4	0.3%

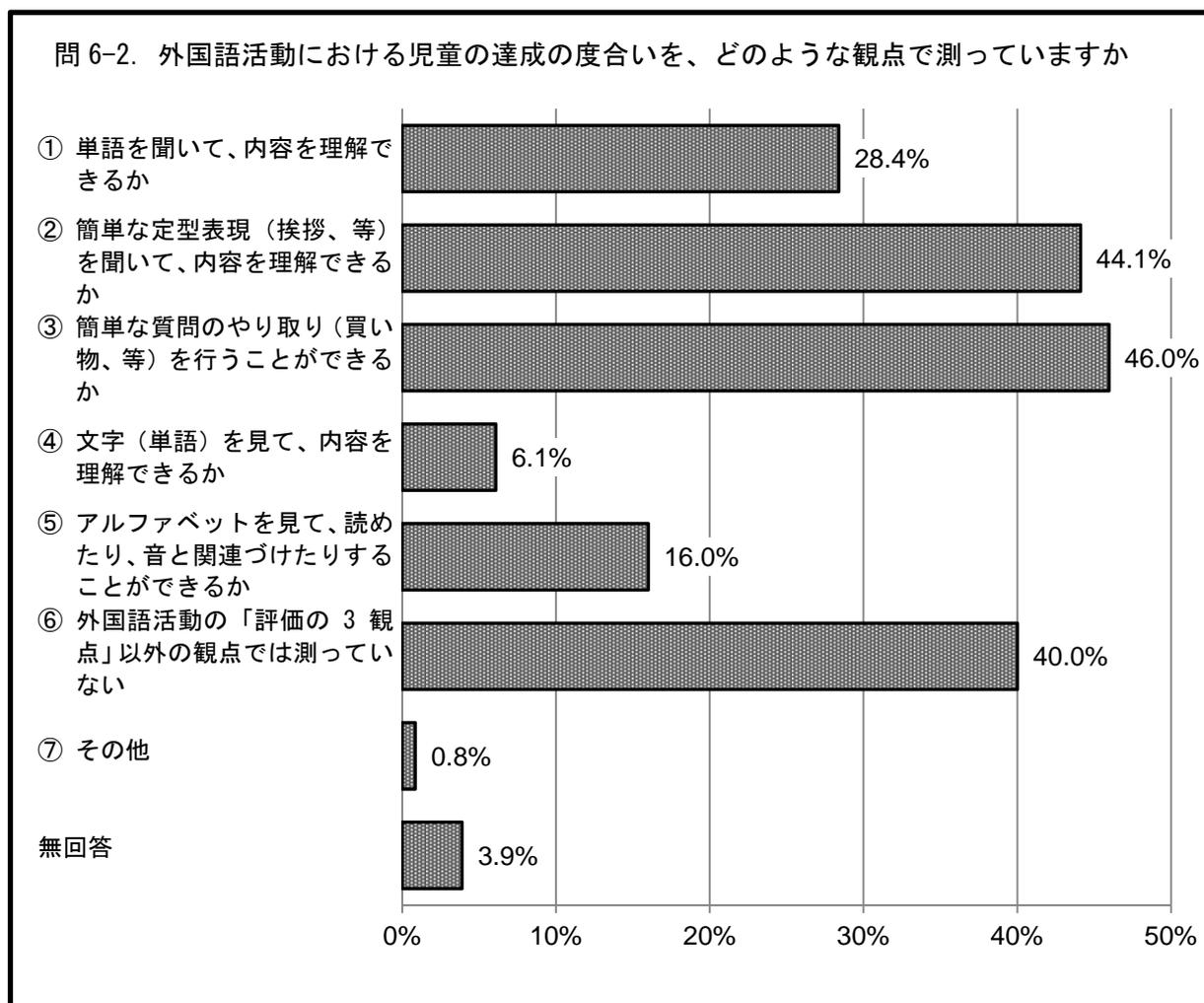


問 6-2. 外国語活動における児童の達成の度合いを、どのような観点で測っていますか。文部科学省による外国語活動の「評価の 3 観点」（コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語への慣れ親しみ、言語や文化に関する気付き）以外で、該当するものをすべて選んでください。

文部科学省による外国語活動の「評価の 3 観点」以外で児童の達成の度合いを、どのような観点で測るかについて聞いてみると、「③ 簡単な質問のやり取り（買い物、等）を行うことができるか」が 46.0% で最も割合が高く、続いて「② 簡単な定型表現（挨拶、等）を聞いて、内容を理解できるか」が 44.1%、「① 単語を聞いて、内容を理解できるか」が 28.4%、「⑤ アルファベットを見て、読めたり、音と関連づけたりすることができるか」が 16.0% という順になった。この順位は前年度と同様の結果となった。

なお、「⑥ 外国語活動の『評価の 3 観点』以外の観点では測っていない」との回答は 40.0% で、こちらも昨年の 39.3% とほぼ同様の結果となった。

選択肢	回答数	N=1,412
① 単語を聞いて、内容を理解できるか	401	28.4%
② 簡単な定型表現（挨拶、等）を聞いて、内容を理解できるか	623	44.1%
③ 簡単な質問のやり取り（買い物、等）を行うことができるか	649	46.0%
④ 文字（単語）を見て、内容を理解できるか	86	6.1%
⑤ アルファベットを見て、読めたり、音と関連づけたりすることができるか	226	16.0%
⑥ 外国語活動の「評価の 3 観点」以外の観点では測っていない	565	40.0%
⑦ その他	12	0.8%
無回答	55	3.9%



問 6-3. 外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）が必要である（必要になる）と思いますか。該当するものを1つだけ選んでください。また、その理由があれば具体的にご記入ください。

外国語活動の成果を測るために、小学校卒業時までになんらかの考査（テスト）の必要性を聞いたところ、必要という回答（「① 必要と思う」＋「② まあ必要と思う」）は16.3%、必要と思わない回答（「③ あまり必要と思わない」＋「④ 必要と思わない」）は82.8%で、否定的な回答が圧倒的に多かった。

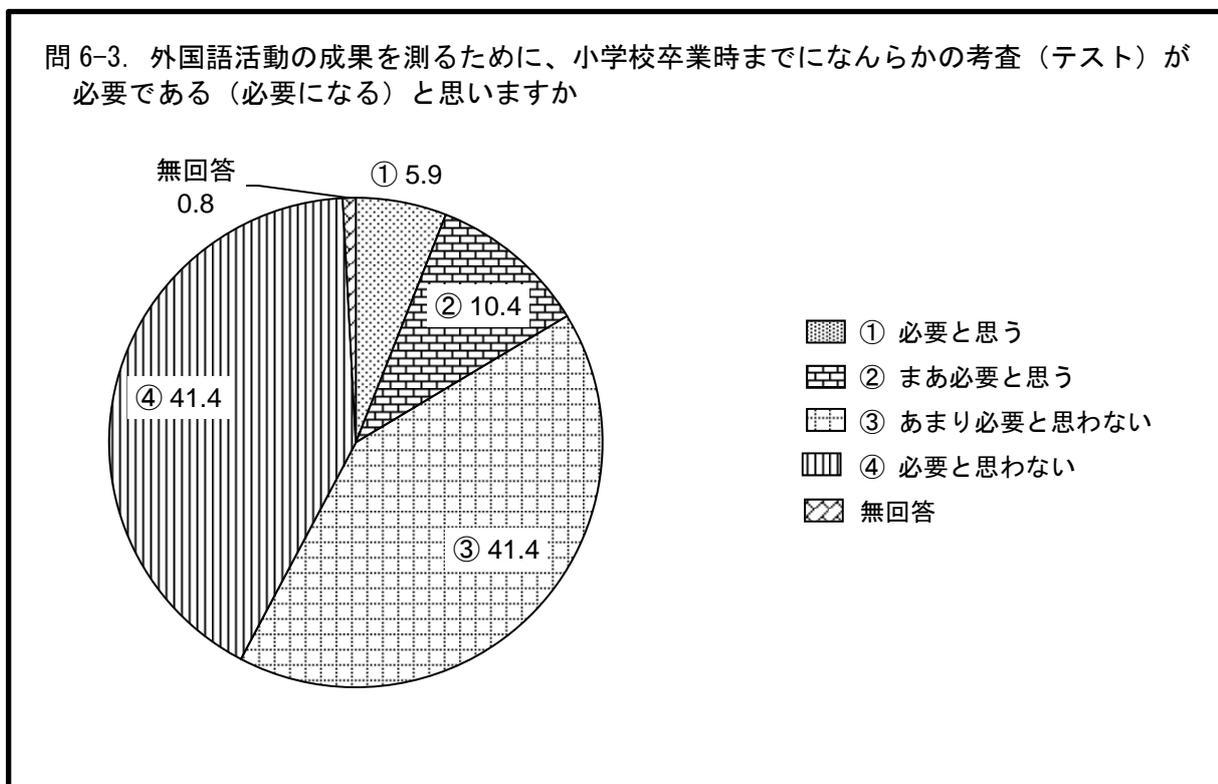
これは、例年の傾向であるが、前年度と比較すると、必要（「① 必要と思う」＋「② まあ必要と思う」）が1.6ポイント増えて、必要と思わない（「③ あまり必要と思わない」＋「④ 必要と思わない」）が0.9ポイント減少した。

合算すると、わずかな変化に見えるが、必要と思わないを個別に見ると、「④ 必要と思わない」が14.8ポイント減少し、「③ あまり必要と思わない」が13.9ポイント増加していることは注目するポイントと考えられる。

必要という回答の理由としては、「目標を決めて学習するのだから評価は必要」と到達度を評価する必要があるとの意見が多かった。

一方、必要と思わないという回答の理由としては、「慣れ親しむこと」「興味・関心を持つこと」などが本来の目的だからという意見が多かった。

選択肢	回答数	N=1,412
① 必要と思う	84	5.9%
② まあ必要と思う	147	10.4%
③ あまり必要と思わない	584	41.4%
④ 必要と思わない	585	41.4%
無回答	12	0.8%



問7. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面で環境は整っていると思いますか。下記の1～15の項目について該当する状況を、a～dの選択肢の中から1つずつ選んでください。

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| ① 外国語活動を実施する全体的な環境 | ⑨ 使用教材（教具）の質 |
| ② 外国語活動担当教員やJTEの配置 | ⑩ 校内研究会・研修会の実施体制 |
| ③ 校内研修を企画・運営できる教員 | ⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換 |
| ④ ALTの小学校訪問頻度 | ⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制 |
| ⑤ 外国語活動実施に対する教員の積極性 | ⑬ 進学先中学校との情報交換の体制 |
| ⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人 | ⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報 |
| ⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人 | ⑮ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制 |
| ⑧ 使用教材（教具）の量 | |

外国語活動実施に際しての環境整備状況について、以下に整っている回答の割合（「a.十分に整っている」＋「b.ある程度整っている」）の順に並べ、さらにその項目に関して、整っていない回答の割合（「d.まったく整っていない」＋「c.あまり整っていない」）を見て分析を行った。

〈1〉「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が70%以上のもの

「④ ALTの小学校訪問頻度」79.7%

「① 国語活動を実施する全体的な環境」75.5%

ALTの小学校訪問頻度については、例年トップになっており、「a.十分に整っている」だけでも34.3%と飛びぬけて高い。

〈2〉「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が60%以上70%未満のもの

「⑧ 使用教材（教具）の量」65.7%

「⑨ 使用教材（教具）の質」63.1%

「② 外国語活動担当教員やJTEの配置」61.1%

使用する教材・教具はある程度整備されているが、「a.十分に整っている」の割合は約1割で、充分に高いとは言えないので、さらなる充実が必要だと言えよう。

〈3〉「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が50%以上60%未満のもの

「⑥ 外国語活動実施に対する教員の積極性」57.5%

「⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報」51.4%

教員の積極性や研修会・勉強会などの情報では、整っていないとする割合が4割を超えている。

〈4〉「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が40%以上50%未満のもの

「⑰ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制」42.0%

「⑬ 進学先中学校との情報交換の体制」41.0%

これらの項目は、整っているという回答が半数を下回っている。

〈5〉「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が30%以上40%未満のもの

「⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人」38.2%

「⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人」38.0%

「⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制」35.1%

「③ 校内研修を企画・運営できる教員」34.3%

〈6〉「a.十分に整っている」「b.ある程度整っている」の合計が30%未満のもの

「⑩ 校内研究会・研修会の実施体制」28.6%

「⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制」26.6%

これらの項目では、整っていないという回答の割合が整っているという回答の割合の2倍を超えている。特に、「⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制」は「d.まったく整っていない」が21.0%と15項目中最も高い。

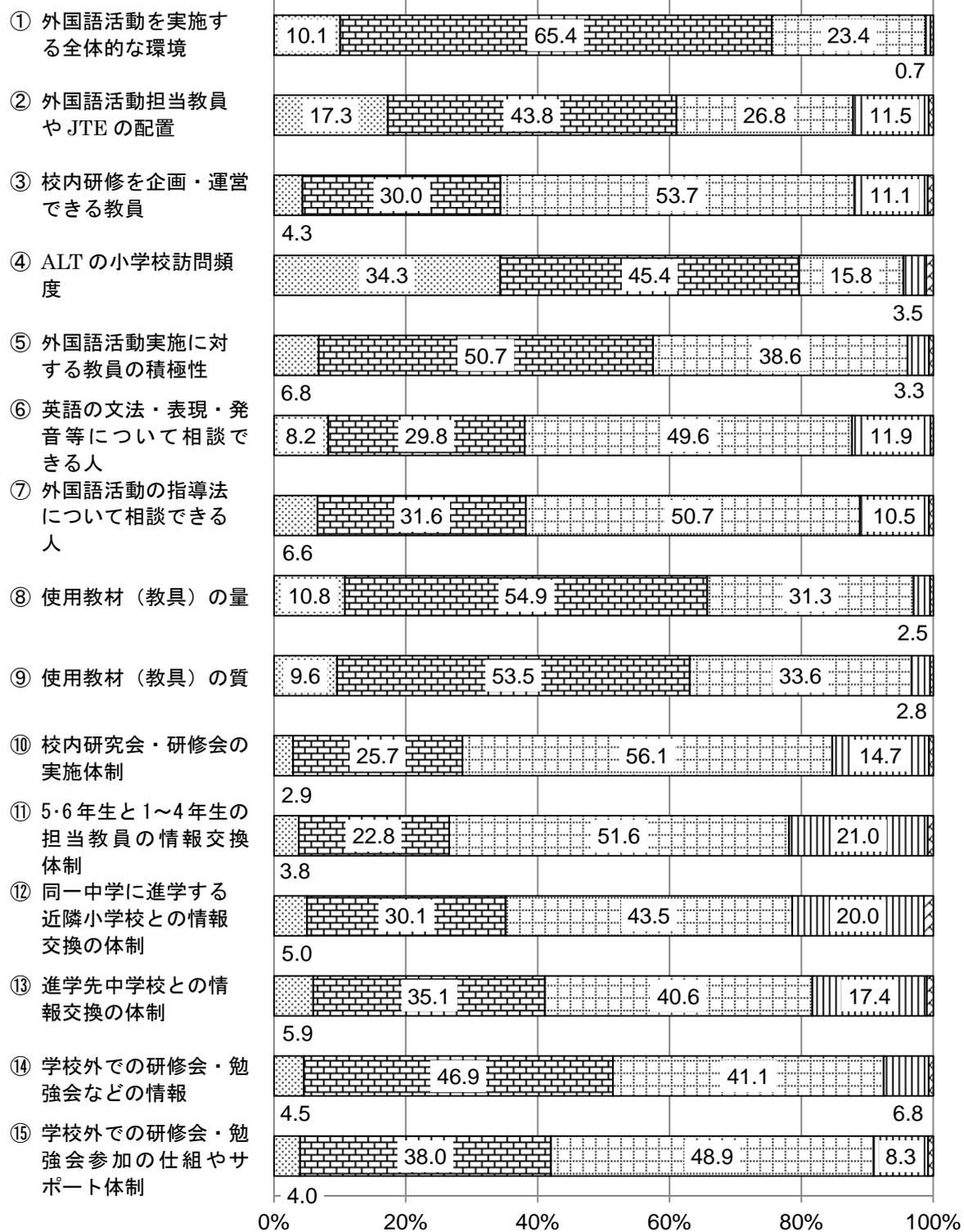
〈 項目順 〉

項目	a. 十分に整っている	b. ある程度整っている	c. あまり整っていない	d. まったく整っていない	無回答
① 外国語活動を実施する全体的な環境	10.1%	65.4%	23.4%	0.7%	0.4%
② 外国語活動担当教員やJTEの配置	17.3%	43.8%	26.8%	11.5%	0.7%
③ 校内研修を企画・運営できる教員	4.3%	30.0%	53.7%	11.1%	0.8%
④ ALTの小学校訪問頻度	34.3%	45.4%	15.8%	3.5%	1.1%
⑤ 外国語活動実施に対する教員の積極性	6.8%	50.7%	38.6%	3.3%	0.6%
⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人	8.2%	29.8%	49.6%	11.9%	0.4%
⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人	6.6%	31.6%	50.7%	10.5%	0.6%
⑧ 使用教材（教具）の量	10.8%	54.9%	31.3%	2.5%	0.5%
⑨ 使用教材（教具）の質	9.6%	53.5%	33.6%	2.8%	0.5%
⑩ 校内研究会・研修会の実施体制	2.9%	25.7%	56.1%	14.7%	0.6%
⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制	3.8%	22.8%	51.6%	21.0%	0.8%
⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制	5.0%	30.1%	43.5%	20.0%	1.4%
⑬ 進学先中学校との情報交換の体制	5.9%	35.1%	40.6%	17.4%	1.0%
⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報	4.5%	46.9%	41.1%	6.8%	0.7%
⑮ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制	4.0%	38.0%	48.9%	8.3%	0.8%

〈 項目順グラフ 〉

問 7. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面で環境は整っていると思いますか

- a. 十分に整っている
 b. ある程度整っている
 c. あまり整っていない
 d. まったく整っていない
 無回答



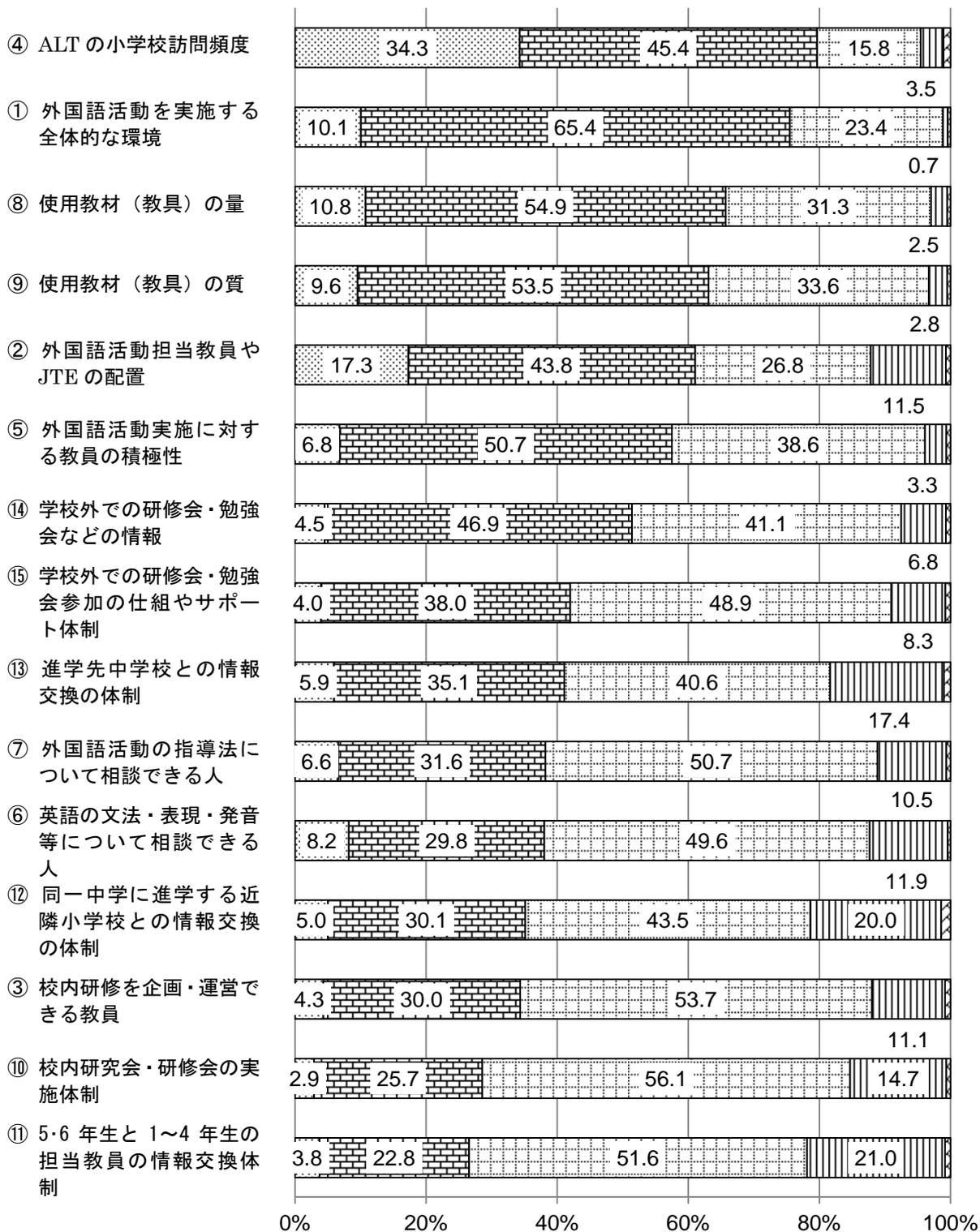
〈降順「a.十分に整っている」＋「b.ある程度整っている」の肯定回答の多い順〉

項 目	a.十分に整っている	b.ある程度整っている	c.あまり整っていない	d.まったく整っていない	無回答
④ ALTの小学校訪問頻度	34.3%	45.4%	15.8%	3.5%	1.1%
① 外国語活動を実施する全体的な環境	10.1%	65.4%	23.4%	0.7%	0.4%
⑧ 使用教材（教具）の量	10.8%	54.9%	31.3%	2.5%	0.5%
⑨ 使用教材（教具）の質	9.6%	53.5%	33.6%	2.8%	0.5%
② 外国語活動担当教員やJTEの配置	17.3%	43.8%	26.8%	11.5%	0.7%
⑤ 外国語活動実施に対する教員の積極性	6.8%	50.7%	38.6%	3.3%	0.6%
⑭ 学校外での研修会・勉強会などの情報	4.5%	46.9%	41.1%	6.8%	0.7%
⑮ 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制	4.0%	38.0%	48.9%	8.3%	0.8%
⑬ 進学先中学校との情報交換の体制	5.9%	35.1%	40.6%	17.4%	1.0%
⑦ 外国語活動の指導法について相談できる人	6.6%	31.6%	50.7%	10.5%	0.6%
⑥ 英語の文法・表現・発音等について相談できる人	8.2%	29.8%	49.6%	11.9%	0.4%
⑫ 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制	5.0%	30.1%	43.5%	20.0%	1.4%
③ 校内研修を企画・運営できる教員	4.3%	30.0%	53.7%	11.1%	0.8%
⑩ 校内研究会・研修会の実施体制	2.9%	25.7%	56.1%	14.7%	0.6%
⑪ 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制	3.8%	22.8%	51.6%	21.0%	0.8%

〈 降順グラフ 〉

問7. 5・6年生の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面で環境は整っていると思いますか

a. 十分に整っている
 b. ある程度整っている
 c. あまり整っていない
 d. まったく整っていない
 無回答



問8. 現在、外国語活動において、貴校で問題や課題であると感じていることはありますか。該当するものを上位3つまで選び、優先度が高い順に1位、2位、3位として、その選択肢番号を[]に書いてください。

得点は1位を3点、2位を2点、3位を1点として集計した。

外国語活動における問題や課題の総得点を高い順にみると、1位が「⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術」で1,705点、2位が「① 指導内容・方法」で1,574点、3位が「⑩ ALTとの連携および打合せ時間」で1,469点だった。以上が総得点1,000点を超えた項目で、以下「③ 評価内容・方法」（774点）、「④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）」(554点)、「⑨ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い」(522点)と続く。

問題や課題の単純集計（ウエイトをかけない回答数のみの数値）をみると、「⑤ 教員（HRT等）の指導力・技術」が最も多く、全回答者のうち半数以上にあたる55.5%が回答したことになる。以下、「① 指導内容・方法」49.2%、「⑥ ALTとの連携および打合せ時間」が48.2%と続く。この順位は優先度の高い順に得点換算した結果と一致している。

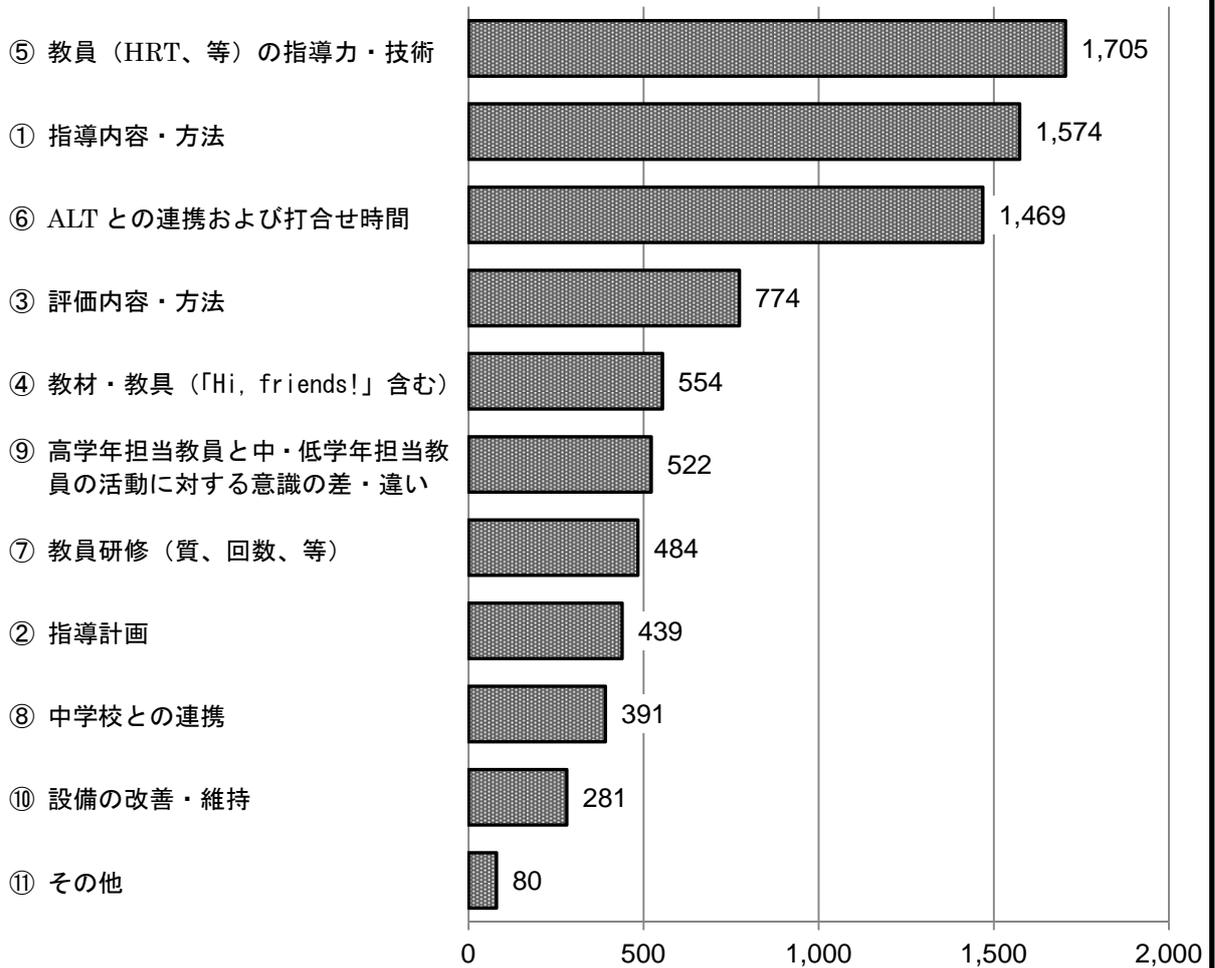
〈降順 選択肢の優先度の高い順位の得点換算順 同点の場合は1位を優先

〈1位〉=3得点、〈2位〉=2得点、〈3位〉=1得点〉

選択肢	総得点	回答数	1位	2位	3位
⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術	1,705	784	299	323	162
① 指導内容・方法	1,574	694	349	182	163
⑥ ALTとの連携および打合せ時間	1,469	680	285	219	176
③ 評価内容・方法	774	419	95	165	159
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	554	314	61	118	135
⑨ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い	522	276	83	80	113
⑦ 教員研修（質、回数、等）	484	307	42	93	172
② 指導計画	439	216	68	87	61
⑧ 中学校との連携	391	233	45	68	120
⑩ 設備の改善・維持	281	152	49	31	72
⑪ その他	80	33	21	5	7

〈 降順 選択肢の優先度の高い順位の得点換算順グラフ 〉

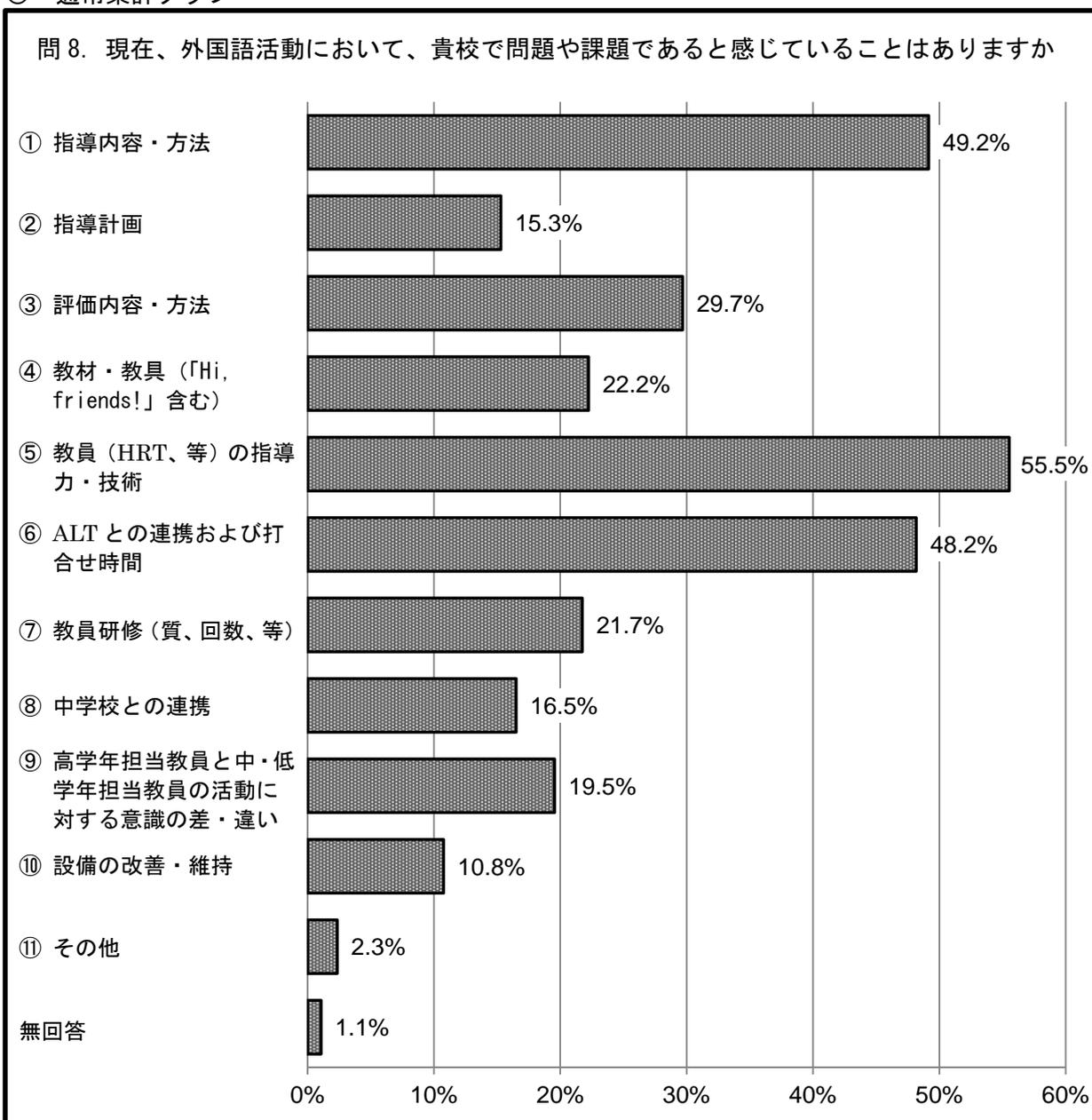
問 8. 現在、外国語活動において、貴校で問題や課題であると感じていることはありますか



◎ 通常集計

選択肢	回答数	N=1412
① 指導内容・方法	694	49.2%
② 指導計画	216	15.3%
③ 評価内容・方法	419	29.7%
④ 教材・教具（「Hi, friends!」含む）	314	22.2%
⑤ 教員（HRT、等）の指導力・技術	784	55.5%
⑥ ALT との連携および打合せ時間	680	48.2%
⑦ 教員研修（質、回数、等）	307	21.7%
⑧ 中学校との連携	233	16.5%
⑨ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い	276	19.5%
⑩ 設備の改善・維持	152	10.8%
⑪ その他	33	2.3%
無回答	15	1.1%

◎ 通常集計グラフ

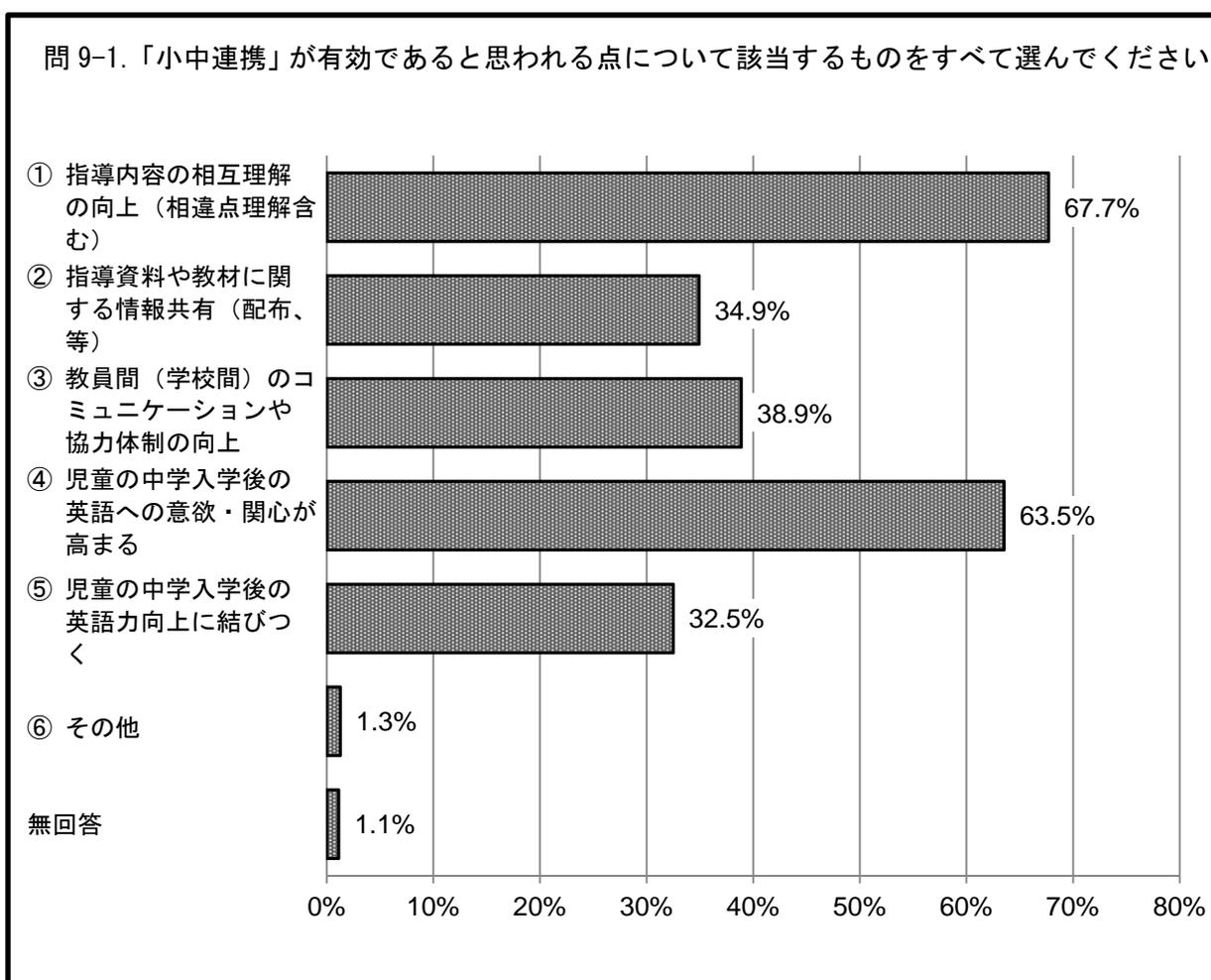


問 9. 外国語活動の導入をふまえた小学校と中学校との連携（小中連携）について伺います。
問 9-1. 「小中連携」が有効であると思われる点について該当するものをすべて選んでください。

小中連携の良い点として「① 指導内容の相互理解の向上（相違点理解含む）」が 67.7%で、昨年同様 1 位であった。次いで「④ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まる」が 63.5%で続いたが、これは昨年の 37.6%から約 26 ポイントの大幅増となった。逆に「③ 教員間（学校間）のコミュニケーションや協力体制の向上」は昨年の 55.5%から 38.9%と約 17 ポイント下げ、3 位となった。以下、「② 指導資料や教材に関する情報共有（配布、等）」が 34.9%、「⑤ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつく」が 32.5%と続き、約 3 分の 1 程度の小学校が選んでいる。特に「⑤ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつく」は昨年度 14.6%であったが、今回は約 18 ポイント増加した。

今回の調査では、「④ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まる」、「⑤ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつく」といった中学への進学後の効果を期待する声が高まる傾向が見られた。

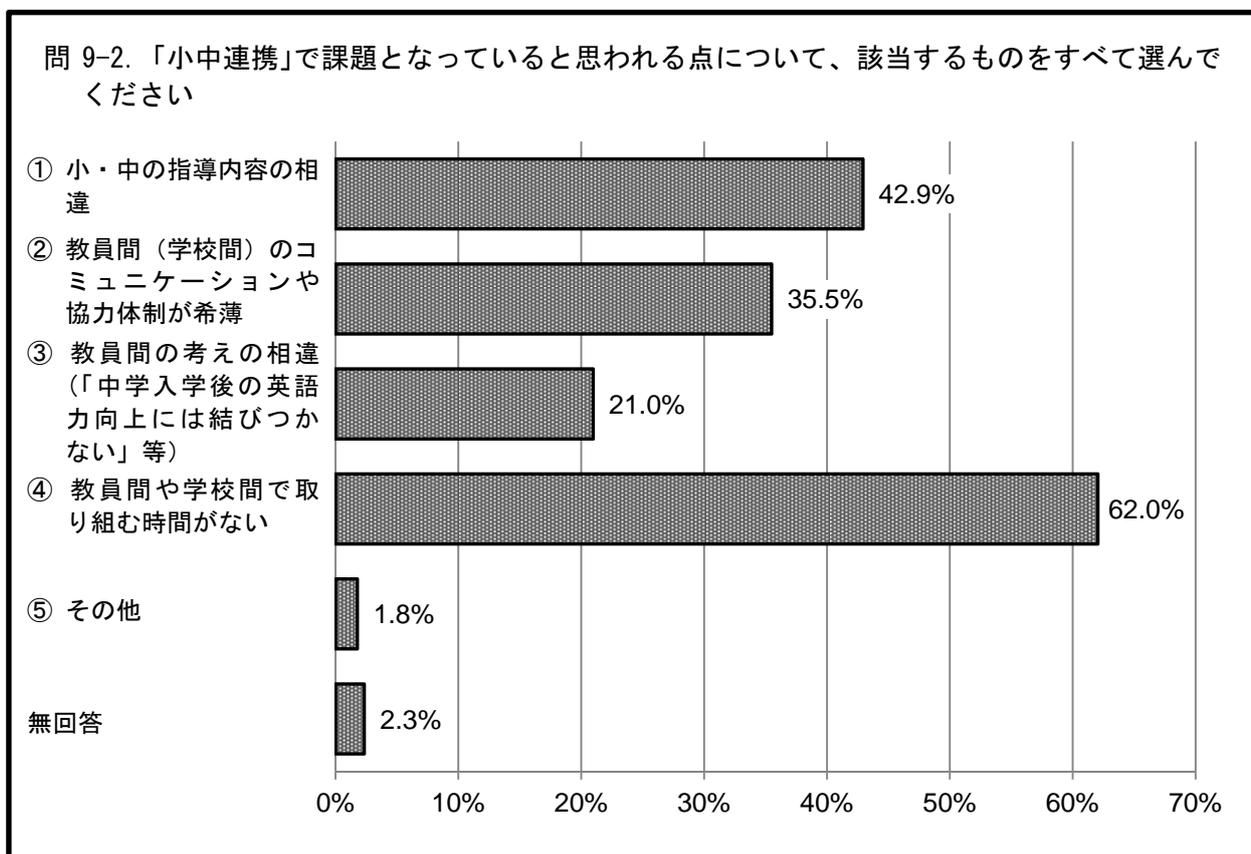
選択肢	回答数	N=1,412
① 指導内容の相互理解の向上（相違点理解含む）	956	67.7%
② 指導資料や教材に関する情報共有（配布、等）	493	34.9%
③ 教員間（学校間）のコミュニケーションや協力体制の向上	549	38.9%
④ 児童の中学入学後の英語への意欲・関心が高まる	897	63.5%
⑤ 児童の中学入学後の英語力向上に結びつく	459	32.5%
⑥ その他	18	1.3%
無回答	16	1.1%



問 9-2. 「小中連携」で課題となっていると思われる点について、該当するものをすべて選んでください。

小中連携を行っている小学校が挙げた課題点をみると、今回選択肢に新しく加わった「④教員間や学校間で取り組む時間がない」が62.0%と1位になった。昨年1位の「① 小・中の指導内容の相違」は今回も42.9%（前年度30.5%）と高い割合を示した。次いで「② 教員間（学校間）のコミュニケーションや協力体制が希薄」35.5%（前年度29.6%）、「③ 教員間の考えの相違（「中学入学後の英語力向上には結びつかない」等）が21.0%で続いた。

選択肢	回答数	N=1,412
① 小・中の指導内容の相違	606	42.9%
② 教員間（学校間）のコミュニケーションや協力体制が希薄	501	35.5%
③ 教員間の考えの相違（「中学入学後の英語力向上には結びつかない」等）	296	21.0%
④ 教員間や学校間で取り組む時間がない	876	62.0%
⑤ その他	25	1.8%
無回答	33	2.3%

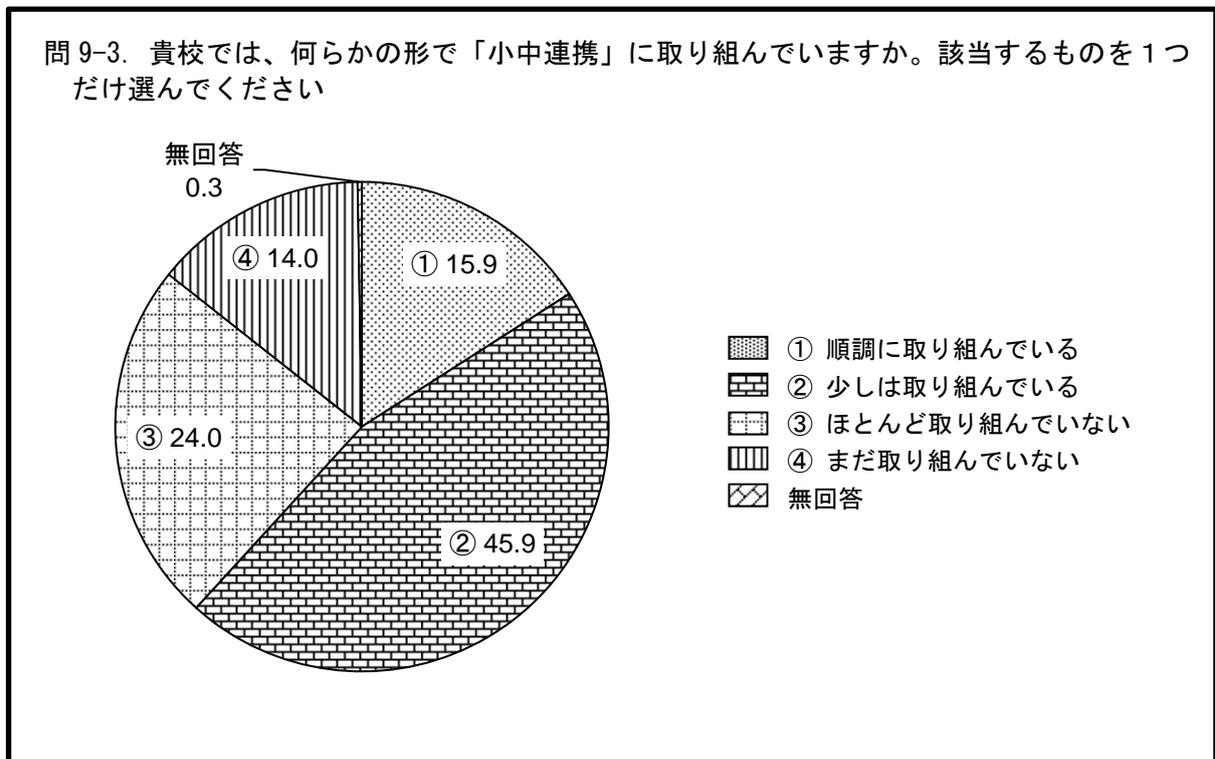


問 9-3. 貴校では、何らかの形で「小中連携」に取り組んでいますか。該当するものを1つだけ選んでください。

何らかの形で「小中連携」に取り組んでいるかについて、取り組んでいる（「① 順調に取り組んでいる」＋「② 少しは取り組んでいる」）とする回答は61.8%であったが、「① 順調に取り組んでいる」のは15.9%であった。

また、取り組んでいない（「③ ほとんど取り組んでいない」＋「④ まだ取り組んでいない」）という回答は38.0%あり、全体に「小中連携」への取り組みはこれからという結果となった。

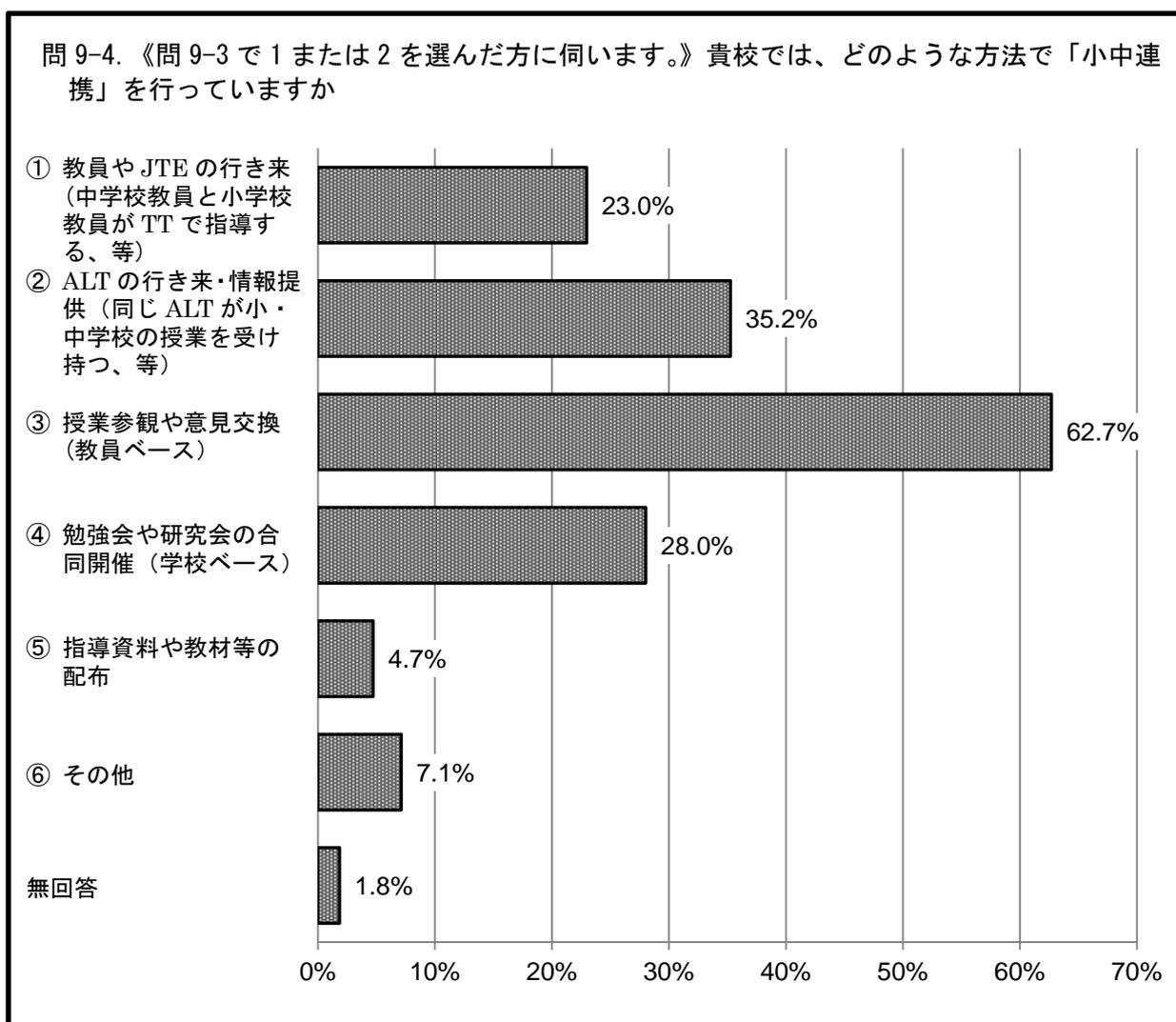
選択肢	回答数	N=1,411
① 順調に取り組んでいる	224	15.9%
② 少しは取り組んでいる	647	45.9%
③ ほとんど取り組んでいない	338	24.0%
④ まだ取り組んでいない	198	14.0%
無回答	4	0.3%



問9-4. 《問9-3で1または2を選んだ方に伺います。》貴校では、どのような方法で「小中連携」を行っていますか。該当するものをすべて選んでください。

小中連携に取り組んでいる小学校が行っている方法については、62.7%が「③ 授業参観や意見交換（教員ベース）」を挙げた。続いて多かったのは「② ALT の行き来・情報提供（同じALTが小・中学校の授業を受け持つ、等）」の35.2%で、さらに「④ 勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）」の28.0%、「① 教員やJTEの行き来（中学校教員と小学校教員がTTで指導する、等）」の23.0%の順になっており、昨年と比べ順位に変化はなかった。

選択肢	回答数	N=871
① 教員やJTEの行き来（中学校教員と小学校教員がTTで指導する、等）	200	23.0%
② ALTの行き来・情報提供（同じALTが小・中学校の授業を受け持つ、等）	307	35.2%
③ 授業参観や意見交換（教員ベース）	546	62.7%
④ 勉強会や研究会の合同開催（学校ベース）	244	28.0%
⑤ 指導資料や教材等の配布	41	4.7%
⑥ その他	62	7.1%
無回答	16	1.8%



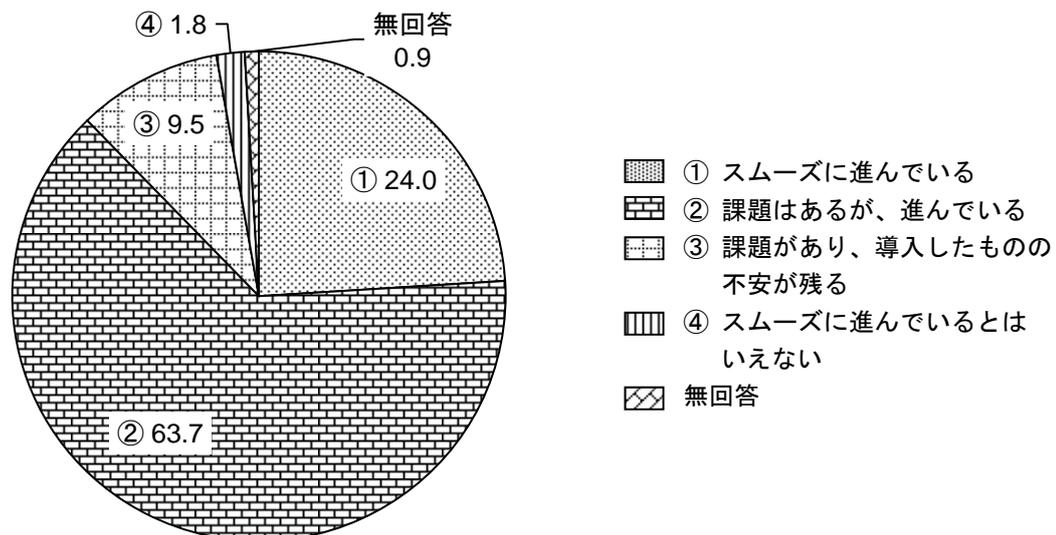
問 10. 外国語活動必修化から2年以上が経ちましたが、貴校では5・6年生での外国語活動がスムーズに進んでいると思いますか。該当するものを1つだけ選んでください。

必修化後の外国語活動を聞いたところ、「② 課題はあるが、進んでいる」が63.7%と3分の2近くに達しており、「① スムーズに進んでいる」の24.0%を合わせると、約9割で取り組みが進んでいることが分かった。「③ 課題があり、導入したものの不安が残る」は9.5%だった。

これは前年度とほぼ同様の結果であり、課題を持ちつつ進んでいるという回答傾向に変化はなかった。

選択肢	回答数	N=1,412
① スムーズに進んでいる	339	24.0%
② 課題はあるが、進んでいる	900	63.7%
③ 課題があり、導入したものの不安が残る	134	9.5%
④ スムーズに進んでいるとはいえない	26	1.8%
無回答	13	0.9%

問 10. 外国語活動必修化が導入されてから2年以上が経ちましたが、貴校では5・6年生での外国語活動がスムーズに進んでいると思いますか。該当するものを1つだけ選んでください



問 11. 外国語活動及び英語活動の導入が、小学校や児童に与える影響や変化について伺います。
 問 11-1. 外国語活動及び英語活動の導入によって、貴校にとってどのような影響がある（あった）
 と思いますか。該当するものをすべて選んでください。

外国語活動及び英語活動の導入が小学校に与える影響について、最も多かった回答は「① 児童の外国語や異文化への理解の向上」の 75.6%であり、昨年度に引き続き第 1 位であった。

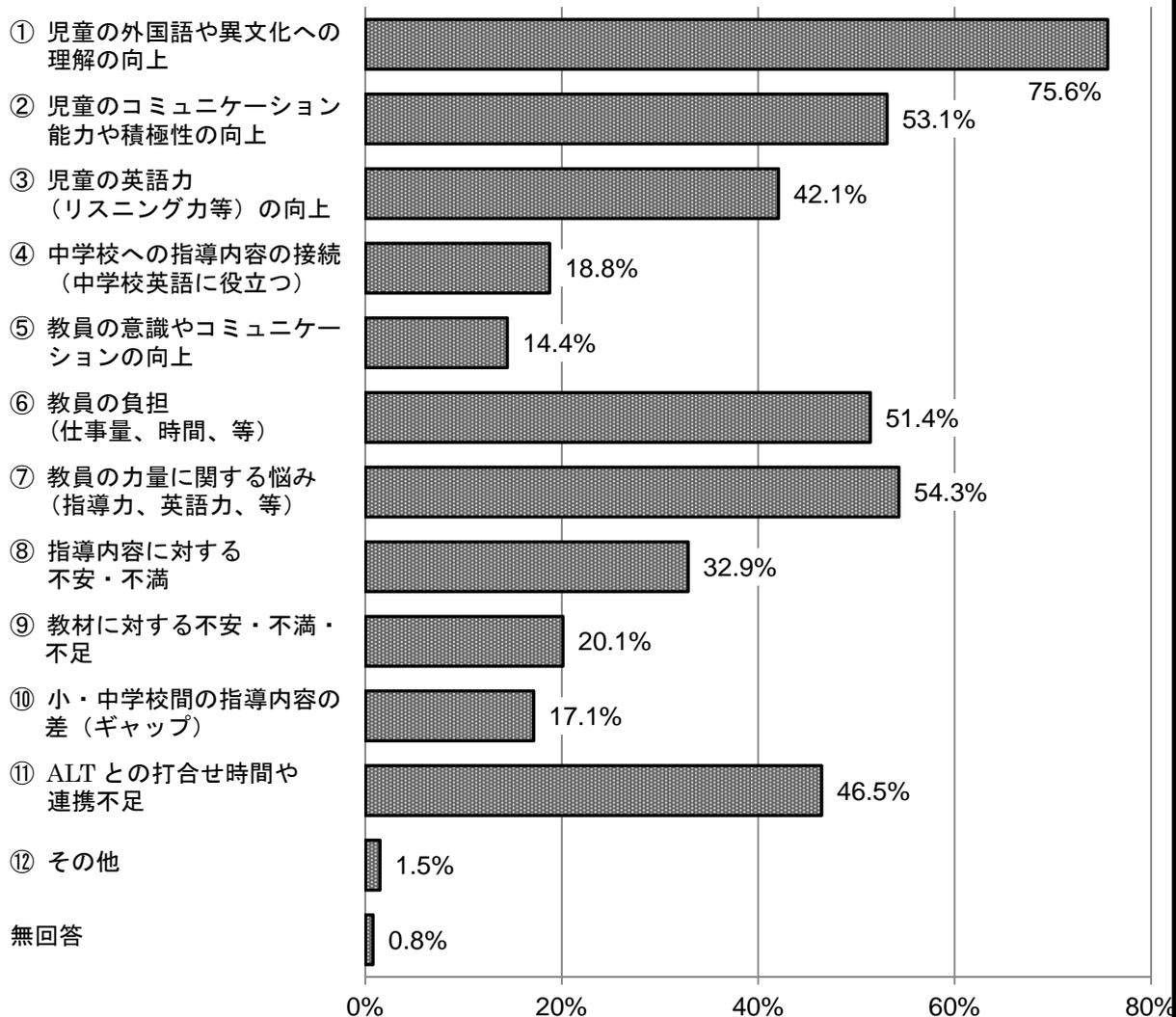
肯定的な内容では「② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上」が 53.1%、「③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上」が 42.1%と続いた。

一方、「⑦ 教員の力量に関する悩み（指導力、英語力、等）」が 54.3%、「⑥ 教員の負担（仕事量、時間、等）」が 51.4%と負担や力量への影響を半数以上が挙げた。昨年は「⑥ 教員の負担（仕事量、時間、等）」が「⑦ 教員の力量に関する悩み（指導力、英語力、等）」を 1.3 ポイント上回っていたが、今年は逆に⑦が⑥を 2.9 ポイント上回っている。また、「⑪ ALT との打合せ時間や連携不足」が 46.5%、「⑧ 指導内容に対する不安・不満・不足」の 32.9%と否定的な影響も多くあげられた。

以上のように、肯定的な影響と否定的な影響が混在している傾向は、昨年同様であった。

選択肢	回答数	N=1,412
① 児童の外国語や異文化への理解の向上	1,067	75.6%
② 児童のコミュニケーション能力や積極性の向上	750	53.1%
③ 児童の英語力（リスニング力等）の向上	594	42.1%
④ 中学校への指導内容の接続（中学校英語に役立つ）	265	18.8%
⑤ 教員の意識やコミュニケーションの向上	204	14.4%
⑥ 教員の負担（仕事量、時間、等）	726	51.4%
⑦ 教員の力量に関する悩み（指導力、英語力、等）	767	54.3%
⑧ 指導内容に対する不安・不満	464	32.9%
⑨ 教材に対する不安・不満・不足	284	20.1%
⑩ 小・中学校間の指導内容の差（ギャップ）	242	17.1%
⑪ ALT との打合せ時間や連携不足	656	46.5%
⑫ その他	21	1.5%
無回答	11	0.8%

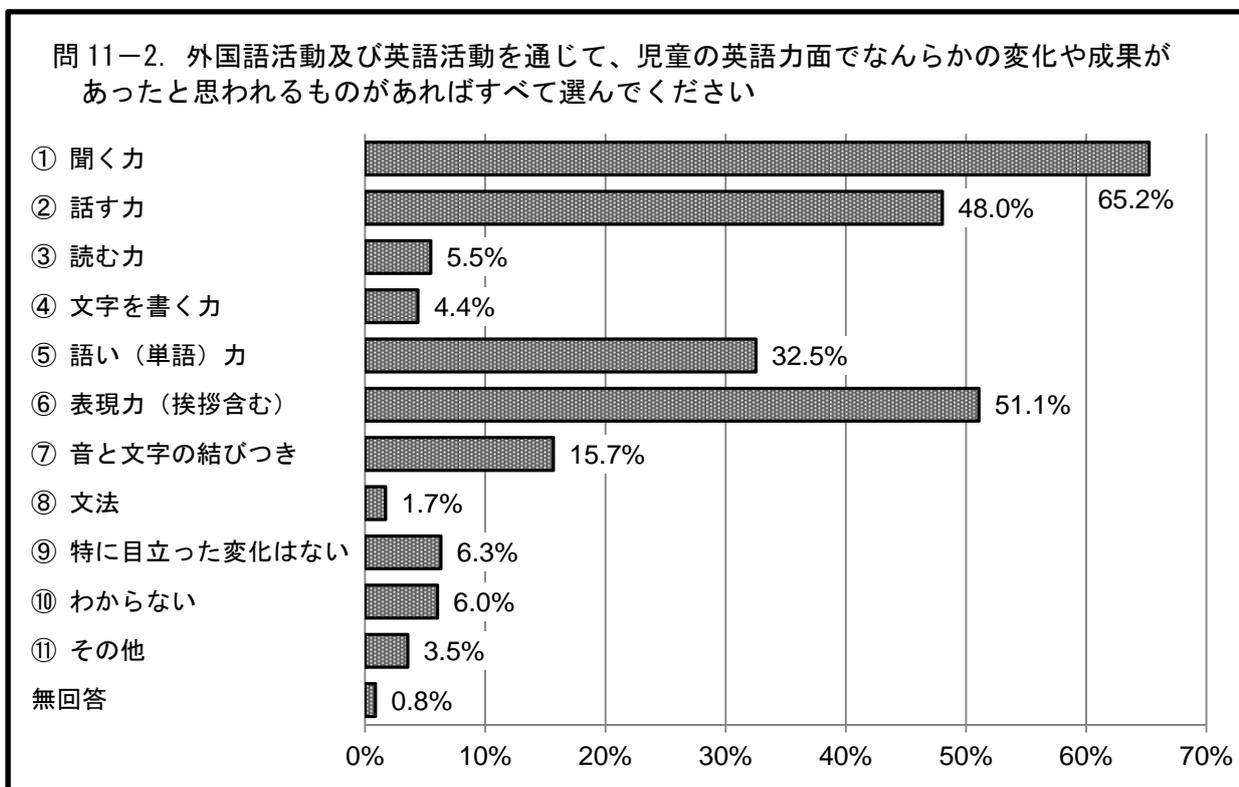
問 11-1. 外国語活動及び英語活動の導入によって、貴校にとってどのような影響がある（あった）と思いますか。該当するものをすべて選んでください



問 11-2. 外国語活動及び英語活動を通じて、児童の英語力面でなんらかの変化や成果があったと思われるものがあればすべて選んでください。

児童の英語力に関して良い影響を聞いたところ、「① 聞く力」(65.2%、昨年 68.1%)、「② 表現 (挨拶を含む) 力」(51.1%、昨年 68.5%)、「② 話す力」(48.0%、昨年 43.9%)、「⑤ 語い (単語) 力」(32.5% 59.1%) の順に良い影響があったという回答になった。上位 5 項目に変化はないが、「変化や成果があった」とする割合は「②話す力」を除く 3 項目で減少している。5 位以下でも「③ 読む力」(5.5%、昨年 8.7%)「④ 文字を書く力」(4.4%、昨年 5.7%) といずれも減少傾向にある。一方で、「⑨ 特に目立った変化はない」(6.3%、昨年 4.4%)、「⑩ わからない」(6.0%、昨年 3.1%) を選択した割合が増加し、順位を上げている点は注意すべきかもしれない。ただし、「⑨ 特に目立った変化はない」も、増えたとはいえ 6.3%にとどまっており、多くの学校が成果を感じているようだ。

選択肢	回答数	N=1,412
① 聞く力	921	65.2%
② 話す力	678	48.0%
③ 読む力	77	5.5%
④ 文字を書く力	62	4.4%
⑤ 語い (単語) 力	459	32.5%
⑥ 表現力 (挨拶含む)	721	51.1%
⑦ 音と文字の結びつき	221	15.7%
⑧ 文法	24	1.7%
⑨ 特に目立った変化はない	89	6.3%
⑩ わからない	85	6.0%
⑪ その他	50	3.5%
無回答	12	0.8%



問 12. 2013 年 10 月の新聞等で、2020 年度を目途にした小学校英語の実施方法に関する報道がありました。下記 1～5 の項目についてご意見があれば、該当番号を選択した上で、[] に具体的にご記入ください。

2020 年度を目途にした小学校英語の実施方法に関する意見を求め、以下のような結果となった。全ての項目で非常に熱心な回答が寄せられた。関心は非常に高いと言えよう。

「① 5,6 年生は正式な教科として週 3 回の授業を行う」ことに関しては、40%を超える学校から意見が寄せられた。「国際化社会には必要」など積極的賛成意見は目立たず、ほとんどが現状では難しいとする意見であった。問題点として挙げられた点を集約すると、「他教科への影響も含め、授業時間の確保の問題」、「指導内容や教員の育成・確保などの質の問題」、「教員の負担増などへの懸念」などが挙げられた。

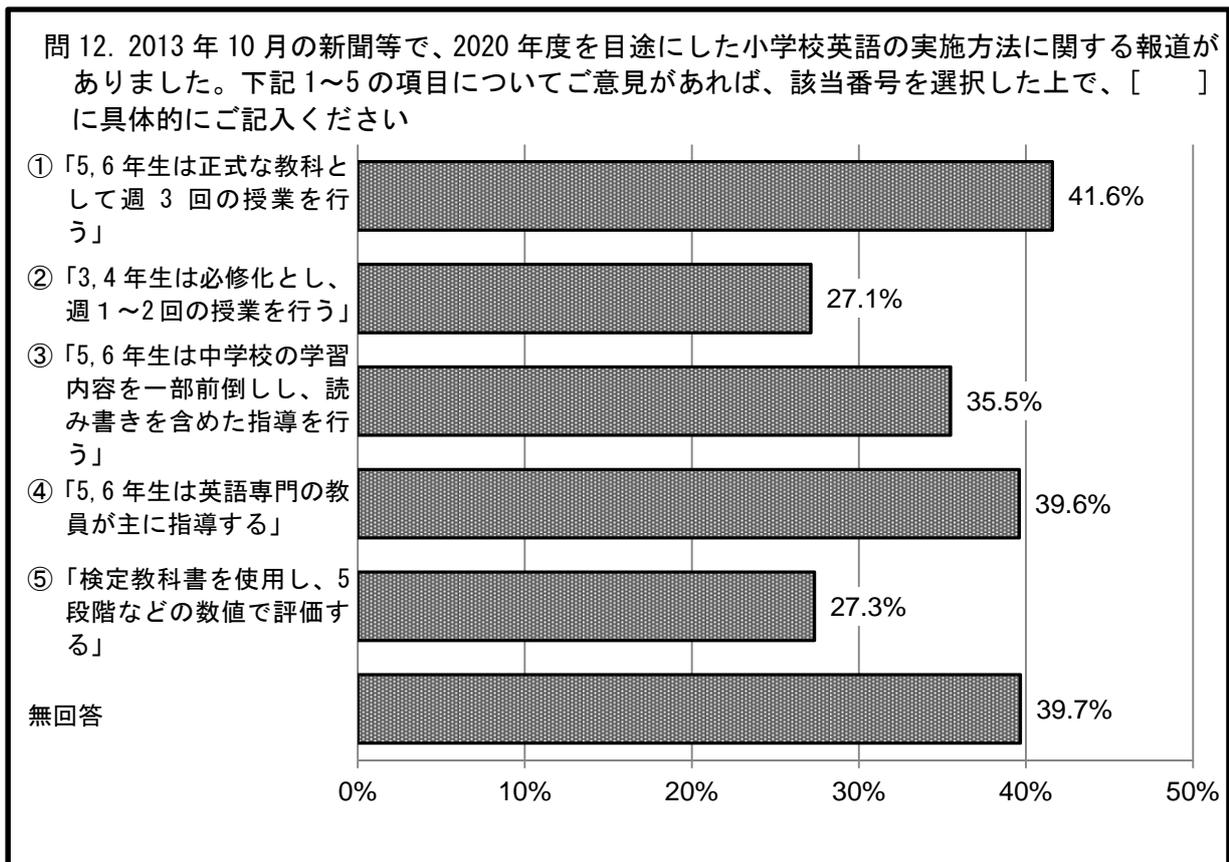
「② 3,4 年生は必修化とし、週 1～2 回の授業を行う」ことに関しては、「他教科への影響」「国語教育が先決」などといった意見が多かったが、「週 1 回なら」という条件付きの賛成意見もあった。「より小さいときから慣れ親しんだほうがよいので、1,2 年生から」という積極的な声もあった。

「③ 5,6 年生は中学校の学習内容を一部前倒しし、読み書きを含めた指導を行う」ことに関しては、「中学への導入として好ましい」などの賛成意見は少数派であった。消極的意見で最も多かったのは、「児童のさらなる負担となり、英語嫌いを助長するのでは」という懸念であった。

「④ 5,6 年生は英語専門の教員が主に指導する」ことに関しては、賛成意見が多数派だった。しかし、「児童理解を含め、担任がやるべき」といった意見も様々な視点からあり、「賛成。しかし人員配置が可能なのか」などの専門人材の配置を不安視する、反対要素と賛成要素が混在する意見も見られた。賛成の意見の中では、「現状では担任の負担が大きすぎるので仕方がない」という消極的な賛成もあった。

「⑤ 検定教科書を使用し、5 段階などの数値で評価する」ことに関しては、ほとんどが消極的意見であった。「教科であれば必要なのでは」という現状を踏まえる現実論にとどまり、積極的な賛成は少なかった。消極的意見としては、「楽しむという小学校英語の良さが失われる」、「本来のコミュニケーション能力の向上という主旨からはずれる」などの意見が数多く見られた。

選択肢	回答数	N=1,412
①「5,6年生は正式な教科として週3回の授業を行う」	587	41.6%
②「3,4年生は必修化とし、週1~2回の授業を行う」	383	27.1%
③「5,6年生は中学校の学習内容を一部前倒しし、読み書きを含めた指導を行う」	501	35.5%
④「5,6年生は英語専門の教員が主に指導する」	559	39.6%
⑤「検定教科書を使用し、5段階などの数値で評価する」	386	27.3%
無回答	560	39.7%



<平成 25 年 12 月調査>

小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査

《 総合編（国・公・私立小学校対象） 》

報告書

平成 26 年 3 月

公益財団法人 日本英語検定協会

英語教育研究センター

〒162-8055 東京都新宿区横寺町 55

Tel. 03-3266-6706/Fax. 03-3266-6740
